

1. 家庭ごみ及び事業系ごみ排出実態調査

1.1 調査概要

1.1.1 調査の目的

実態調査は、墨田区内の家庭ごみ及び事業所から排出されるごみについて、組成等の排出状況を確認し、分別状況等の実態を把握することを目的として実施した。

1.1.2 調査対象

- (1) 家庭ごみにおける燃やすごみ
- (2) 家庭ごみにおける燃やさないごみ
- (3) 事業系ごみにおける燃やすごみ
- (4) 事業系ごみにおける燃やさないごみ

1.1.3 調査項目

- (1) 組成（湿重量）
- (2) 容積
- (3) 含水率

1.1.4 調査期間

自 2019年10月15日（火）

至 2019年10月28日（月）

1.2 調査方法

1.2.1 調査地域及び調査実施日

調査地域は、前回の調査地域（12地域）に、繁華街地域を1つ追加した13地域とした。また、調査は10月15日（火）～10月28日（月）の12日間（日曜日は除く）で実施した。調査地域及び調査実施日を表1.2.1に示す。

表 1.2.1 調査地域及び調査実施日

地域	要件	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
		第3曜日						第4曜日							
		火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
A 江東橋3	繁華街地域									不	可				可
B 錦糸2	繁華街地域			可				可		不					
C 亀沢2	職住混在地域（観光拠点）			可		不		可							
D 業平1～3	職住混在地域（観光拠点）	可									不	可			
E 京島3	職住混在地域	可		不								可			
F 立花6	職住混在地域		可		不								可		
G 吾妻橋1	職住混在地域				可			不	可						
H 横川5	住居地域（集合住宅）		不								可				可
I 文花3	住居地域（集合住宅）		可									不	可		
J 墨田5	住居地域（集積所）	不				可				可					
K 千歳3	住居地域（集積所）			可				可					不		
L 東向島6	住居地域（戸別偏在）					可			不	可					
M 向島4	住居地域（戸別偏在）				可				可						不
サンプル数		3	3	4	3	3		4	3	4	3	3	3		3

可：燃やすごみ 不：燃やさないごみ

1.2.2 調査方法

(1) 試料採取と運搬

墨田区の職員が調査対象地域のごみ集積所から試料を採取し、墨田清掃工場に搬入した。

(2) 搬入量の計測及び事業所名の記録

試料を袋のまま家庭ごみと事業系ごみに分け、重量を計測した。また、「事業所のごみ減量に対する意識調査」に活用するため、事業系ごみの有料ごみ処理券に記載されている事業所名を記録した。

(3) 縮分

家庭ごみの燃やすごみは重量 50～100kg 程度に、事業系ごみの燃やすごみは重量 50～100kg 程度に縮分を行った。また、燃やさないごみ（家庭ごみ、事業系ごみ共通）は、袋の状態に重量 50kg 程度に縮分を行った。

(4) 分類・組成調査

破袋して、組成分類項目別（小分類で 86 項目。表 1.2.2 及び表 1.2.3 を参照）に分類を行った後、組成分類項目毎に重量の計測、写真撮影を行った。なお、分類後に項目毎に容量を計量し、全体容量は項目毎の容量を合計することで算出を行った。

(5) 片付け・室内試験

分別後の燃やすごみはピットへ投入した。また、燃やさないごみはすみだ清掃事務所に搬入し、処分を行った。

また、家庭ごみの生ごみ及び生ごみ以外のごみをサンプルとして一部持ち帰り、室内試験によって含水率を測定した。測定は、24 時間後（自然乾燥後）と乾燥後（恒量を得るまで乾燥機を使用）の 2 回実施した。

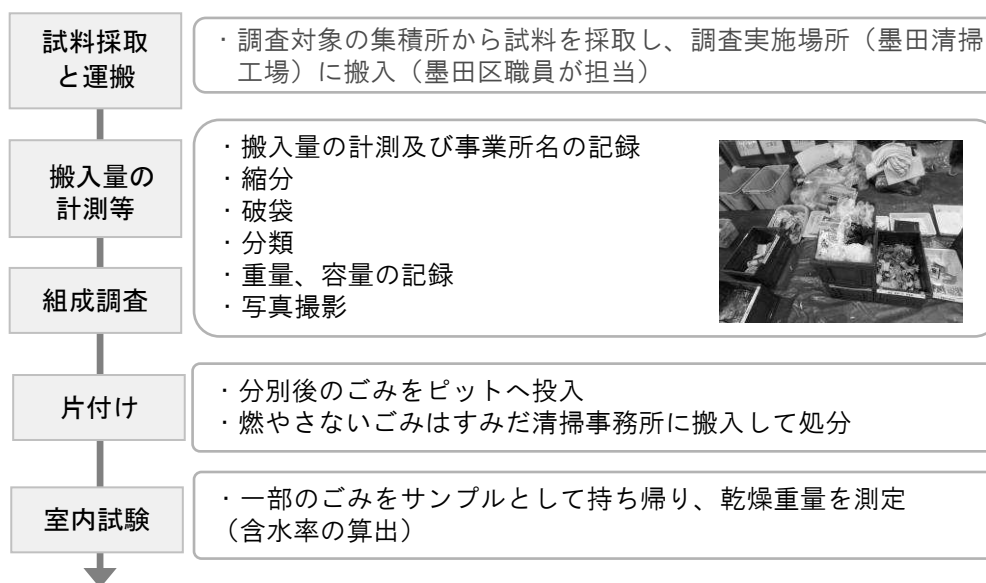


図 1.2.1 家庭ごみ及び事業系ごみ排出実態調査の実施フロー

表 1.2.2 組成分類項目 (1)

No.	大分類	中分類	小分類
1	紙類	新聞紙	新聞紙 (リサイクル可)
2			新聞紙 (リサイクル不可の状態)
3		チラシ	チラシ (リサイクル可)
4			チラシ (リサイクル不可の状態)
5		雑誌	雑誌
6		書籍	書籍
7		段ボール	容器包装対象
8			容器包装非対象
9		牛乳パック	容器包装対象
10			容器包装非対象
11		紙箱	紙箱
12		包装紙	包装紙
13		紙袋	紙袋
14		OA 用紙	シュレッド用紙
15			伝票・帳簿類
16			コピー用紙
17			その他の OA 用紙
18		紙おむつ	紙おむつ
19		その他紙類	その他紙類
20	厨芥類	生ごみ (食べ残し)	未開封の食料品
21		生ごみ (食べ残し以外)	残飯、野菜くず、茶殻等
22	繊維類	繊維類 (衣類、古布等)	衣類 (リサイクル可)
23			衣類 (リサイクル不可)
24	草木類	草木類	草木類
25	廃食油	廃食油	廃食油
26	プラスチック類	フィルム系	指定ごみ袋
27			レジ袋
28			その他 (容器包装対象)
29			その他 (容器包装非対象)
30		PET ボトル	食料用
31			飲料用
32			その他 PET ボトル (リサイクル不可)
33		その他の形状のボトル	食料用
34			飲料用
35			その他ボトル (リサイクル不可)
36		ボトルのキャップ	ボトルのキャップ
37		パック・カップ類	食料用
38			飲料用
39			その他パック・カップ類
40		食品トレイ	無色発泡樹脂
41			有色発泡樹脂
42			その他食品トレイ (リサイクル不可)
43		その他プラスチック類	その他 (容器包装対象)
44			その他 (容器包装非対象)

表 1.2.3 組成分類項目 (2)

No.	大分類	中分類	小分類	
45	ゴム・皮革類	ゴム・皮革類	ゴム・皮革類	
46	その他可燃物等	その他可燃物等	その他可燃物	
47			粗大系ごみ・適正処理困難物	
48	ガラス類	透明リターナブルビン (リサイクル可のビン)	飲料用	
49			食料用	
50		透明ワンウェイビン	飲料用	
51			食料用	
52			その他	
53		色付きリターナブルビン (リサイクル可のビン)	飲料用	
54			食料用	
55		色付きワンウェイビン	飲料用	
56			食料用	
57			その他	
58		割れたビン	割れたビン	
59		その他ガラス類	その他ガラス類	
60		金属類	鉄類	飲料用缶 (鉄)
61				食料用缶 (鉄)
62	カセット式ボンベ・スプレー缶			
63	その他の缶類			
64	調理用具 (なべ、やかん、フライパン)			
65	調理用具 (その他)			
66	その他 (鉄類)			
67	非鉄金属		飲料用缶 (アルミ)	
68			食料用缶 (アルミ)	
69			カセット式ボンベ・スプレー缶	
70			その他のアルミ缶	
71			調理用具 (なべ、やかん、フライパン)	
72			調理用具 (その他)	
73			その他 (非鉄金属)	
74	家電類	小型家電製品 (区が回収している 12 品目)	携帯電話	
75			コード類 (AC アダプタ含む)	
76			その他小型家電 (10 品目)	
77	小型家電製品以外の家電製品	小型家電製品以外の家電製品		
78	その他不燃物	陶磁器類	陶磁器類	
79		乾電池等	乾電池	
80			その他 (ボタン電池、バッテリー等)	
81		蛍光灯	蛍光灯	
82		水銀含有廃棄物	水銀含有廃棄物	
83		電球	電球	
84		傘	傘	
85		ライター	ライター	
86		その他 (不燃物)	金属とプラスチックの組み合わさった生活用品、おもちゃ等	

1.3 調査結果

家庭ごみ及び事業系ごみ排出実態調査の結果を以下に示す。なお、構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

1.3.1 燃やすごみ

(1) 湿重量（組成）

ア) 家庭ごみと事業系ごみの合計

ごみの組成を大分類で見ると、厨芥類の占める割合が最も高く、全体の32.0%であった。次いで紙類が26.1%、プラスチック類が19.1%であり、この3分類で全体の約3/4を占めている。

ごみの組成を中分類で見ると、生ごみ（食べ残し以外）が占める割合が最も高く、30.4%であった。次いで、フィルム系のプラスチック類が10.7%、その他紙類が9.0%であった。

表 1.3.1 湿重量（組成）調査結果（調査地域別）

大分類	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	全体 (平均)
調査地域	江東橋3	錦糸2	亀沢2	業平1~3	京島3	立花6	吾妻橋1	横川5	文花3	墨田5	千歳3	東向島6	向島4	
地域特性	繁華街地域		職住混在地域 (観光拠点)		職住混在地域			住居地域 (集合住宅)		住居地域 (集積所)		住居地域 (戸別偏在)		
紙類	10.3	34.1	23.5	25.2	36.4	32.1	30.6	26.4	25.4	29.7	24.1	26.5	18.0	26.1
厨芥類	66.0	27.7	33.6	33.3	21.9	19.2	14.0	24.1	25.8	35.2	42.3	31.6	29.7	32.0
繊維類	1.3	7.8	4.1	6.4	4.9	1.7	3.3	12.3	9.1	0.8	2.8	1.6	9.0	4.5
草木類	0.2	0.1	2.5	0.8	1.2	4.6	8.9	3.9	1.9	6.7	1.3	15.7	1.0	3.5
廃食油	0.0	4.3	0.2	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.5
プラスチック類	13.1	18.1	31.0	23.6	18.9	15.2	13.1	24.1	26.2	18.2	16.4	18.9	20.1	19.1
ゴム・皮革類	0.7	0.5	0.2	3.3	0.6	0.3	13.0	3.5	1.5	3.7	1.6	1.3	2.5	2.6
その他可燃物等	5.7	3.2	2.0	5.9	15.4	26.5	6.9	5.4	9.6	1.8	7.9	2.3	13.7	8.3
ガラス類	0.6	0.0	0.8	0.4	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.3	0.1	0.9	1.1	0.4
金属類	1.0	3.6	0.4	0.6	0.6	0.1	0.4	0.2	0.4	0.3	0.3	0.6	3.7	1.0
家電類	0.3	0.3	0.0	0.0	0.1	0.0	8.7	0.1	0.1	0.0	0.0	0.5	0.1	1.0
その他不燃物	0.8	0.3	1.7	0.3	0.0	0.4	0.6	0.0	0.0	3.3	3.0	0.2	1.1	1.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

1. 家庭ごみ及び事業系ごみ排出実態調査

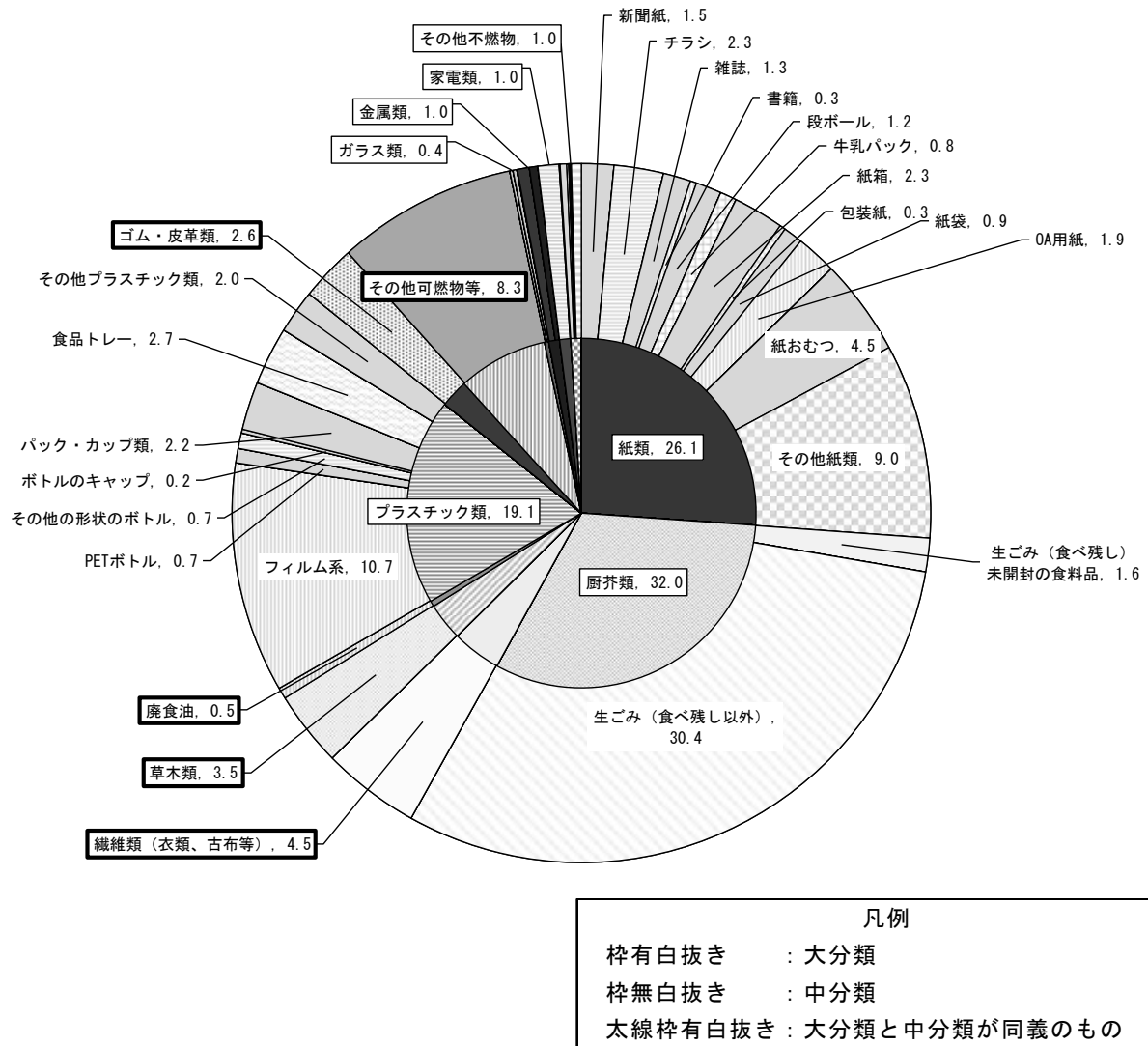


図 1.3.1 湿重量(組成)調査結果(燃やすごみ:家庭ごみと事業系ごみの合計)

イ) 家庭ごみ

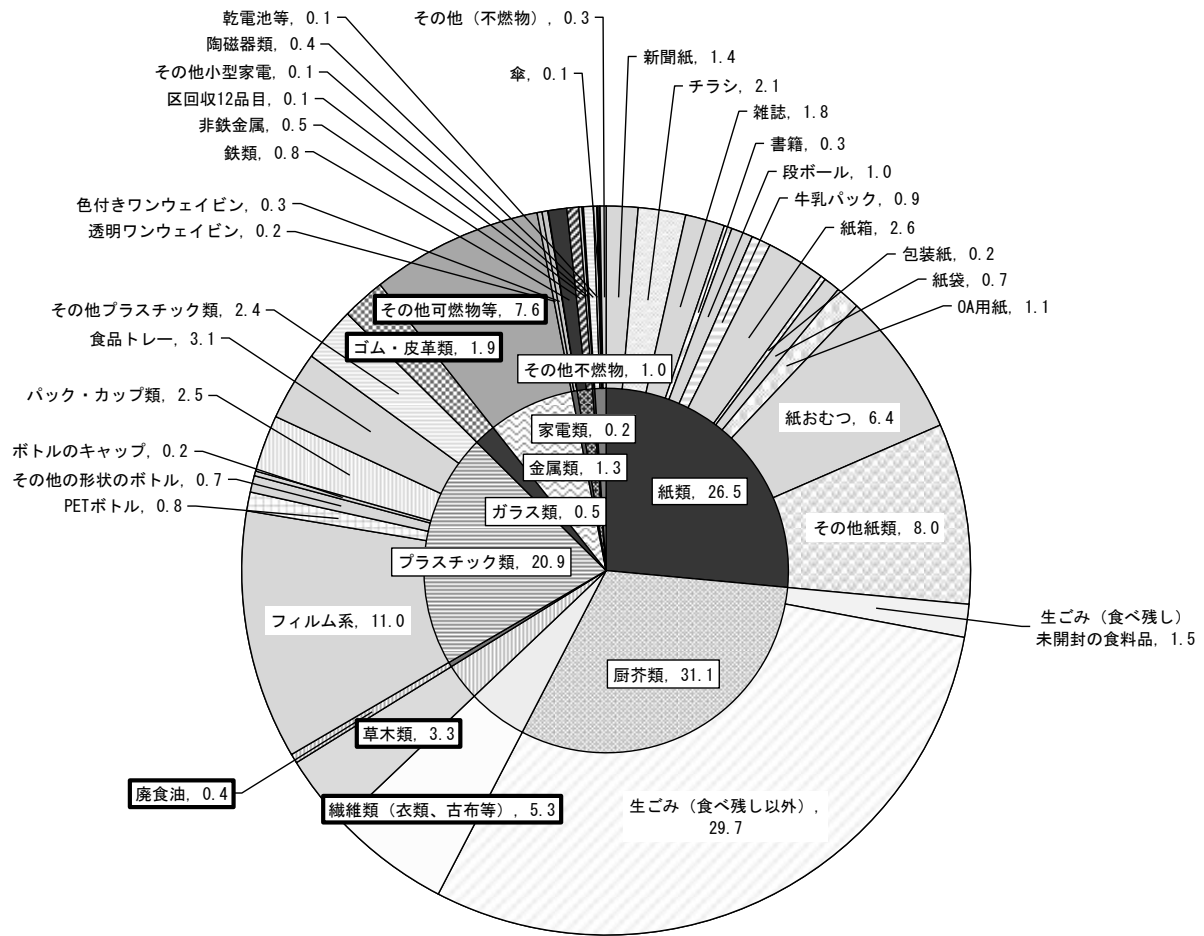
ごみの組成を大分類で見ると、厨芥類の占める割合が最も高く、全体の 31.1%であった。次いで紙類が 26.5%、プラスチック類が 20.9%であり、この 3 分類で全体の約 3/4 を占めている。

ごみの組成を中分類で見ると、生ごみ(食べ残し以外)が占める割合が最も高く、29.7%であった。次いで、フィルム系のプラスチック類が 11.0%、その他紙類が 8.0%であった。各地域の特徴については表 1.3.3 に示す。

表 1.3.2 湿重量(組成)調査結果(調査地域別)

大分類	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	(%)
調査地域	江東橋3	錦糸2	亀沢2	業平1~3	京島3	立花6	吾妻橋1	横川5	文花3	墨田5	千歳3	東向島6	向島4	全体 (平均)
地域特性	繁華街地域		職住混在地域 (観光拠点)		職住混在地域			住居地域 (集合住宅)		住居地域 (集積所)		住居地域 (戸別偏在)		
紙類	13.5	36.0	25.6	25.2	36.4	20.5	33.3	26.4	25.4	29.7	27.8	26.5	18.0	26.5
厨芥類	48.9	31.3	31.5	33.3	21.9	38.4	24.3	24.1	25.8	35.2	29.0	31.6	29.7	31.1
繊維類	2.2	0.8	7.7	6.4	4.9	2.1	6.5	12.3	9.1	0.8	5.2	1.6	9.0	5.3
草木類	0.4	0.2	0.7	0.8	1.2	9.1	0.5	3.9	1.9	6.7	0.4	15.7	1.0	3.3
廃食油	0.0	4.3	0.4	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.4
プラスチック類	19.0	15.7	26.1	23.6	18.9	18.6	17.5	24.1	26.2	18.2	24.3	18.9	20.1	20.9
ゴム・皮革類	1.4	0.9	0.4	3.3	0.6	0.5	2.4	3.5	1.5	3.7	2.7	1.3	2.5	1.9
その他可燃物等	9.8	2.4	2.2	5.9	15.4	9.9	11.9	5.4	9.6	1.8	8.6	2.3	13.7	7.6
ガラス類	1.2	0.0	1.6	0.4	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.3	0.2	0.9	1.1	0.5
金属類	1.5	7.3	0.7	0.6	0.6	0.1	0.9	0.2	0.4	0.3	0.6	0.6	3.7	1.3
家電類	0.6	0.5	0.1	0.0	0.1	0.0	0.7	0.1	0.1	0.0	0.0	0.5	0.1	0.2
その他不燃物	1.5	0.6	3.1	0.3	0.0	0.8	1.2	0.0	0.0	3.3	0.7	0.2	1.1	1.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

1. 家庭ごみ及び事業系ごみ排出実態調査



凡例	
枠有白抜き	: 大分類
枠無白抜き	: 中分類
太線枠有白抜き	: 大分類と中分類が同義のもの

図 1.3.2 湿重量(組成)調査結果(燃やすごみ:家庭ごみ)

表 1.3.3 各地域の特徴（燃やすごみ：家庭ごみ）

大分類	調査地域	地域特性	ごみ組成の特徴	
	全体		<p>厨芥類、紙類、プラスチック類の占める割合が高く、この3分類で全体の約3/4を占めている。</p> <p>ごみの組成を中分類で見ると、地域によって多少の差はあるが、厨芥類の中では生ごみ（食べ残し以外）が占める割合が最も高く、紙類では紙おむつとその他紙類、プラスチック類ではフィルム系プラスチック、その他可燃物等の占める割合が高い。</p>	
A	江東橋 3	繁華街地域	<ul style="list-style-type: none"> 紙類、厨芥類、金属類の占める割合が平均より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 厨芥類の占める割合が平均より高い。
B	錦糸 2			<ul style="list-style-type: none"> 紙類、金属類の占める割合が平均より高い。
C	亀沢 2	職住混在地域 (観光拠点)	<ul style="list-style-type: none"> 厨芥類、繊維類、プラスチック類の占める割合が平均より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 繊維類、プラスチック類の占める割合が平均より高い。
D	業平 1~3			<ul style="list-style-type: none"> 厨芥類、繊維類、プラスチック類の占める割合が平均より高い。
E	京島 3	職住混在地域	<ul style="list-style-type: none"> 紙類、厨芥類、草木類、その他可燃物等の占める割合が平均より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙類、その他可燃物等の占める割合が平均より高い。
F	立花 6			<ul style="list-style-type: none"> 厨芥類、草木類、その他可燃物等の占める割合が平均より高い。
G	吾妻橋 1			<ul style="list-style-type: none"> 紙類、繊維類、その他可燃物等の占める割合が平均より高い。
H	横川 5	住居地域 (集合住宅)	<ul style="list-style-type: none"> 繊維類、プラスチック類の占める割合が平均より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 繊維類、プラスチック類の占める割合が平均より高い。
I	文花 3			<ul style="list-style-type: none"> 繊維類、プラスチック類、その他可燃物等の占める割合が平均より高い。
J	墨田 5	住居地域 (集積所)	<ul style="list-style-type: none"> 紙類、厨芥類、プラスチック類の占める割合が平均より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙類、厨芥類、草木類の占める割合が平均より高い。
K	千歳 3			<ul style="list-style-type: none"> 紙類、プラスチック類、その他可燃物等の占める割合が平均より高い。
L	東向島 6	住居地域 (戸別偏在)	<ul style="list-style-type: none"> 草木類、その他可燃物等、ガラス類、金属類の占める割合が平均より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 草木類、ガラス類の占める割合が平均より高い。
M	向島 4			<ul style="list-style-type: none"> 繊維類、その他可燃物等、金属類、ガラス類の占める割合が平均より高い。

ウ) 事業系ごみ

ごみの組成を大分類で見ると、厨芥類の占める割合が最も高く、33.7%であった。次いで紙類が25.4%、プラスチック類が15.4%であった。

ごみの組成を中分類で見ると、生ごみ(食べ残し以外)が占める割合が最も高く、32.0%であった。次いで、その他紙類が11.1%、その他可燃物等が9.9%であった。

各地域の特徴については表1.3.5に示す。

表 1.3.4 湿重量(組成)調査結果(調査地域別)

大分類	調査地域						全体 (平均)
	A 江東橋3	B 錦糸2	C 亀沢2	F 立花6	G 吾妻橋1	K 千歳3	
地域特性	繁華街地域		職住混在地域 (観光拠点)	職住混在地域		住居地域 (集積所)	
紙類	7.1	32.2	21.4	43.6	27.8	20.4	25.4
厨芥類	83.1	24.2	35.8	0.0	3.7	55.5	33.7
繊維類	0.4	14.9	0.6	1.3	0.2	0.3	3.0
草木類	0.0	0.0	4.3	0.0	17.3	2.1	3.9
廃食油	0.0	4.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
プラスチック類	7.1	20.5	35.9	11.8	8.7	8.6	15.4
ゴム・皮革類	0.1	0.0	0.0	0.0	23.6	0.4	4.0
その他可燃物等	1.6	3.9	1.7	43.2	2.0	7.2	9.9
ガラス類	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
金属類	0.4	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1
家電類	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	2.8
その他不燃物	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	5.3	0.9
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

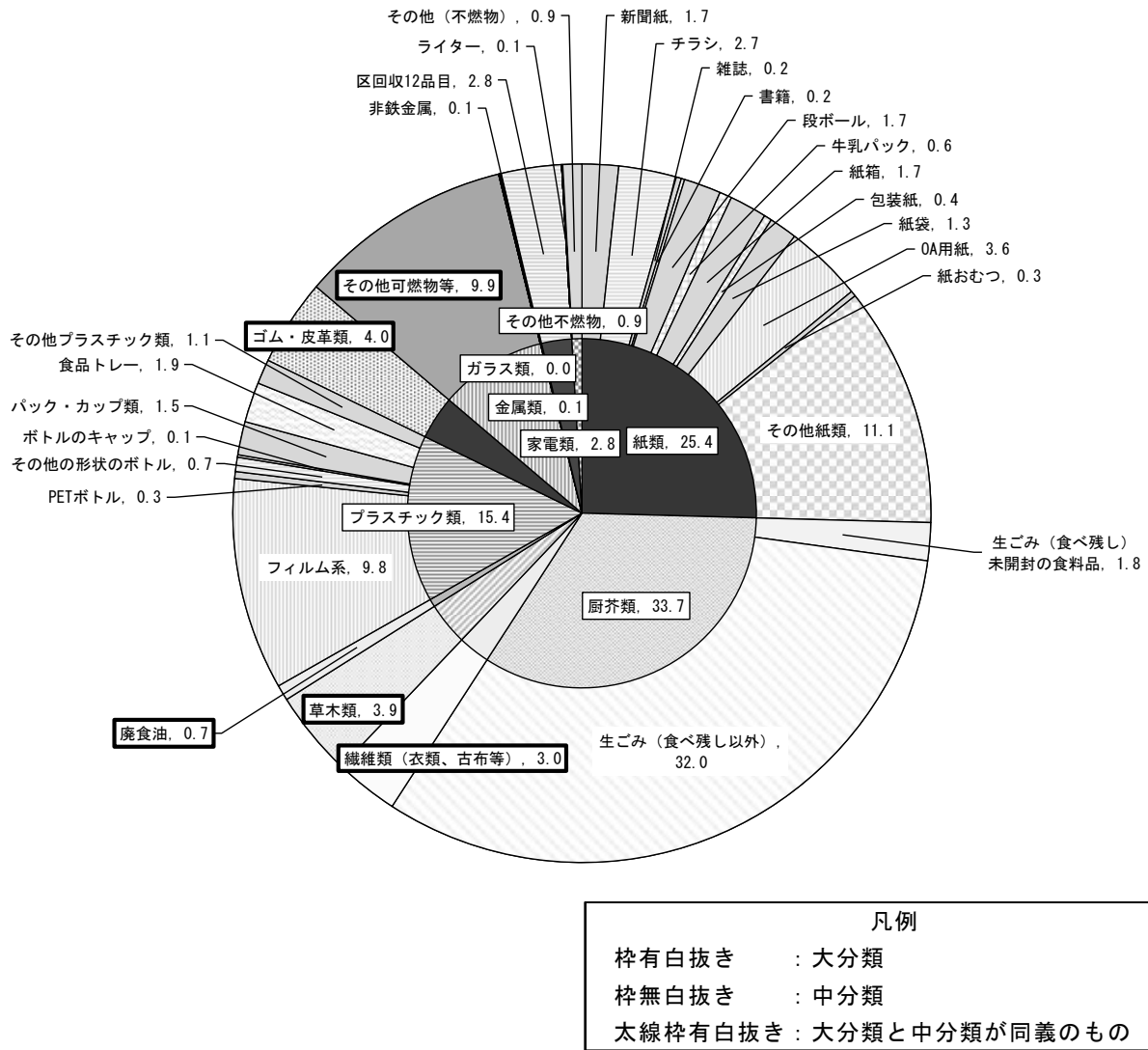


図 1.3.3 湿重量(組成)調査結果(燃やすごみ:事業系ごみ)

表 1.3.5 各地域の特徴（燃やすごみ：事業系ごみ）

大分類	調査地域	地域特性	ごみ組成の特徴	
	全体		<p>厨芥類、紙類、その他可燃物等の占める割合が高い。ごみの組成を中分類で見ると、地域によって多少の差はあるが、生ごみ（食べ残し以外）、その他可燃物等、フィルム系のプラスチック類の占める割合が高い。</p>	
A	江東橋 3	繁華街地域	<ul style="list-style-type: none"> ・地域によって占める割合が高い品目が異なる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・厨芥類の占める割合が平均より高い。
B	錦糸 2			<ul style="list-style-type: none"> ・紙類、繊維類、廃食油、プラスチック類の占める割合が平均より高い。
C	亀沢 2	職住混在地域 (観光拠点)	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック類の占める割合が平均より高い。 	
F	立花 6	職住混在地域	<ul style="list-style-type: none"> ・紙類の占める割合が平均より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙類、その他可燃物等の占める割合が平均より高い。 ・その他可燃物等としては、紙とフィルムを貼り合わせた製品の切れ端のようなものがまとめて排出されていた。
G	吾妻橋 1			<ul style="list-style-type: none"> ・紙類、草木類、ゴム・皮革類、家電類の占める割合が平均より高い。
K	千歳 3	住居地域 (集積所)	<ul style="list-style-type: none"> ・厨芥類、その他不燃物の占める割合が平均より高い。 	

(2) 適正排出

ア) 家庭ごみと事業系ごみの合計

適正に排出されているごみの割合は79.1%であった。

適正に排出されていないごみの内訳を割合が大きい順にみると、資源物が12.6%、粗大系ごみ・適正処理困難物が5.7%、集積所以外でリサイクルが可能なごみが1.4%、燃やさないごみが1.2%であった。

表 1.3.6 適正排出調査結果（調査地域別）

大分類	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	(%)
調査地域	江東橋3	錦糸2	亀沢2	業平1~3	京島3	立花6	吾妻橋1	横川5	文花3	墨田5	千歳3	東向島6	向島4	全体(平均)
地域特性	繁華街地域		職住混在地域(観光拠点)		職住混在地域			住居地域(集合住宅)		住居地域(集積所)		住居地域(戸別偏在)		
燃やすごみ	87.9	71.9	83.9	87.9	72.3	65.2	68.2	84.1	79.6	84.3	79.8	87.0	76.0	79.1
燃やさないごみ	1.6	0.4	2.1	0.3	0.3	0.4	1.1	0.2	0.4	2.9	3.2	0.5	2.6	1.2
資源物	6.8	22.4	13.6	11.0	13.9	9.1	15.7	13.6	13.3	11.5	13.2	10.8	9.0	12.6
集積所回収以外でリサイクル	0.3	4.9	0.2	0.4	0.0	0.1	8.5	0.1	0.1	0.7	0.3	0.5	2.0	1.4
粗大系ごみ・適正処理困難物	3.4	0.4	0.2	0.4	13.5	25.3	6.5	2.0	6.6	0.5	3.6	1.2	10.4	5.7
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

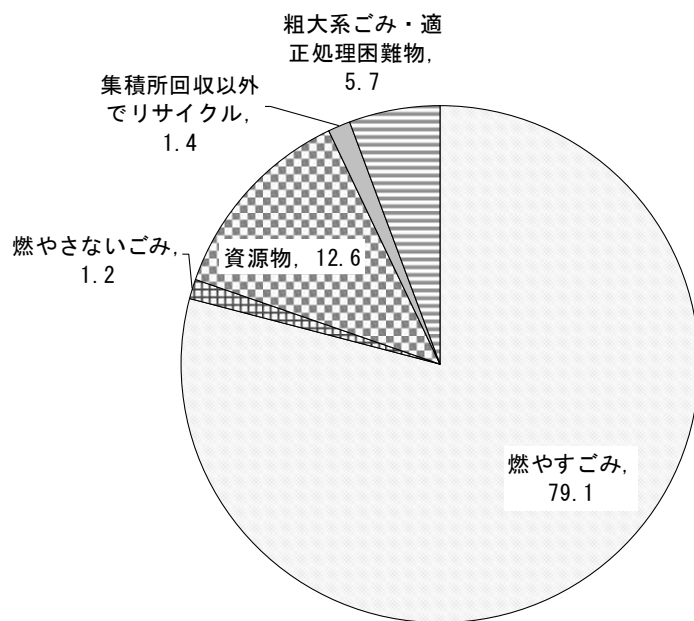


図 1.3.4 適正排出調査結果（燃やすごみ：家庭ごみと事業系ごみの合計）

イ) 家庭ごみ

適正に排出されているごみの割合は78.8%であった。

適正に排出されていないごみの内訳を割合が大きい順にみると、資源物が13.6%、粗大系ごみ・適正処理困難物が5.3%、燃やさないごみが1.4%、集積所以外でリサイクルが可能なごみが0.9%であった。

表 1.3.7 適正排出調査結果（調査地域別）

大分類 調査地域	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	全体 (平均)
	江東橋3	錦糸2	亀沢2	業平1~3	京島3	立花6	吾妻橋1	横川5	文花3	墨田5	千歳3	東向島6	向島4	
地域特性	繁華街地域		職住混在地域 (観光拠点)		職住混在地域			住居地域 (集合住宅)		住居地域 (集積所)		住居地域 (戸別偏在)		
燃やすごみ	79.4	76.2	77.9	87.9	72.3	81.8	65.3	84.1	79.6	84.3	72.8	87.0	76.0	78.8
燃やさないごみ	2.6	0.8	3.8	0.3	0.3	0.7	2.1	0.2	0.4	2.9	1.0	0.5	2.6	1.4
資源物	10.6	16.9	17.4	11.0	13.9	8.7	21.3	13.6	13.3	11.5	18.5	10.8	9.0	13.6
集積所回収以外で リサイクル	0.6	5.4	0.5	0.4	0.0	0.2	0.4	0.1	0.1	0.7	0.6	0.5	2.0	0.9
粗大系ごみ・適正 処理困難物	6.8	0.7	0.3	0.4	13.5	8.6	11.0	2.0	6.6	0.5	7.1	1.2	10.4	5.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

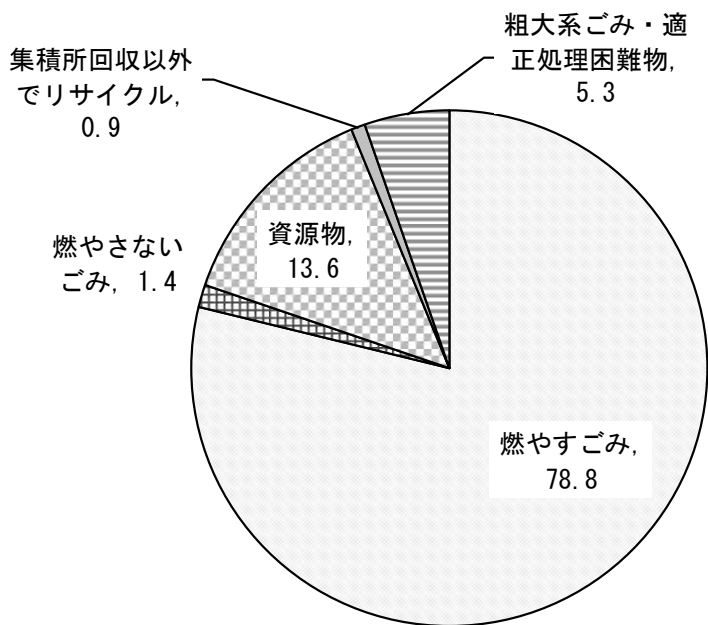


図 1.3.5 適正排出調査結果（燃やすごみ：家庭ごみ）

ウ) 事業系ごみ

適正に排出されているごみの割合は76.7%であった。

適正に排出されていないごみの内訳を割合が大きい順にみると、資源物が11.4%、粗大系ごみ・適正処理困難物が7.3%、集積所以外でリサイクルが3.5%、燃やさないごみが1.0%であった。

表 1.3.8 適正排出調査結果（調査地域別）

大分類	A	B	C	F	G	K	(%)
調査地域	江東橋3	錦糸2	亀沢2	立花6	吾妻橋1	千歳3	全体 (平均)
地域特性	繁華街地域		職住混在地域 (観光拠点)	職住混在地域		住居地域 (集積所)	
燃やすごみ	96.4	67.7	89.8	48.6	71.1	86.8	76.7
燃やさないごみ	0.5	0.0	0.4	0.0	0.0	5.3	1.0
資源物	3.0	28.0	9.8	9.4	10.2	7.9	11.4
集積所回収以外で リサイクル	0.0	4.4	0.0	0.0	16.7	0.0	3.5
粗大系ごみ・適正 処理困難物	0.0	0.0	0.0	42.0	1.9	0.0	7.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

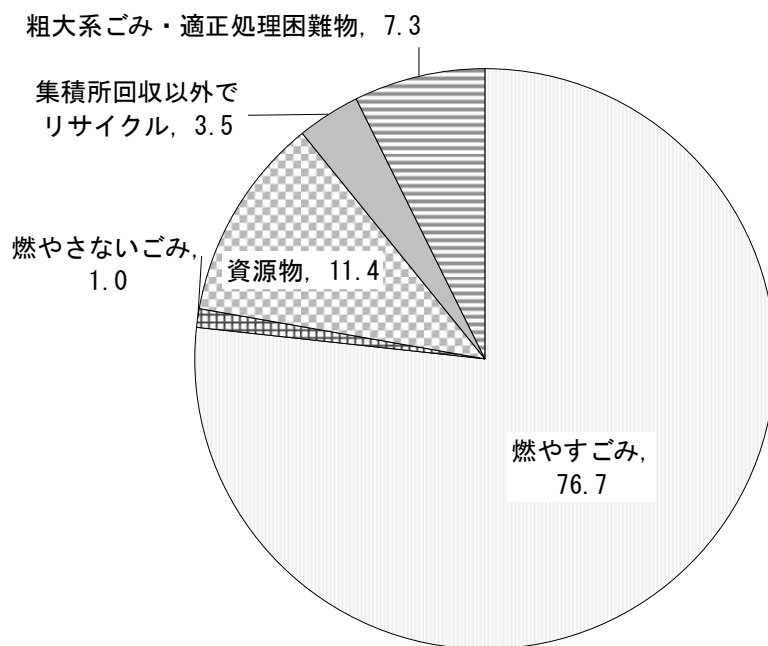


図 1.3.6 適正排出調査結果（燃やすごみ：事業系ごみ）

(3) 容積

ア) 家庭ごみと事業系ごみの合計

ごみの容積を大分類で見ると、プラスチック類の占める割合が最も高く、全体の45.8%であった。次いで紙類が26.4%、厨芥類が11.3%であり、この3分類で全体の約3/4以上を占めている。

表 1.3.9 容積調査結果（調査地域別）

大分類	調査地域													全体 (平均)
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	
調査地域	江東橋3	錦糸2	亀沢2	業平1~3	京島3	立花6	吾妻橋1	横川5	文花3	墨田5	千歳3	東向島6	向島4	
地域特性	繁華街地域		職住混在地域 (観光拠点)		職住混在地域			住居地域 (集合住宅)		住居地域 (集積所)		住居地域 (戸別偏在)		
紙類	19.9	31.9	26.7	27.0	29.0	34.4	23.3	26.7	23.1	28.6	20.1	29.2	26.1	26.4
厨芥類	34.9	10.9	9.4	6.1	5.2	4.5	4.7	5.9	6.2	9.2	17.8	8.0	9.5	11.3
繊維類	0.8	2.9	2.7	4.0	6.7	1.5	3.1	5.2	7.7	1.8	2.6	1.6	3.4	3.0
草木類	0.5	0.2	1.8	2.0	1.9	4.6	11.1	2.7	2.3	4.9	2.9	7.0	1.2	3.4
廃食油	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
プラスチック類	36.8	48.9	56.0	49.5	47.4	39.1	39.8	48.8	50.2	46.9	47.1	47.3	44.0	45.8
ゴム・皮革類	0.7	0.5	0.0	2.7	0.2	0.1	7.7	2.2	1.3	2.6	0.7	1.1	1.9	1.7
その他可燃物等	5.8	4.2	3.0	6.4	8.7	15.8	6.5	8.5	9.0	3.9	6.4	5.4	11.9	7.2
ガラス類	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.4	0.1
金属類	0.6	0.1	0.1	2.0	0.9	0.1	0.6	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	1.3	0.4
家電類	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.3
その他不燃物	0.0	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	1.9	2.4	0.0	0.4	0.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

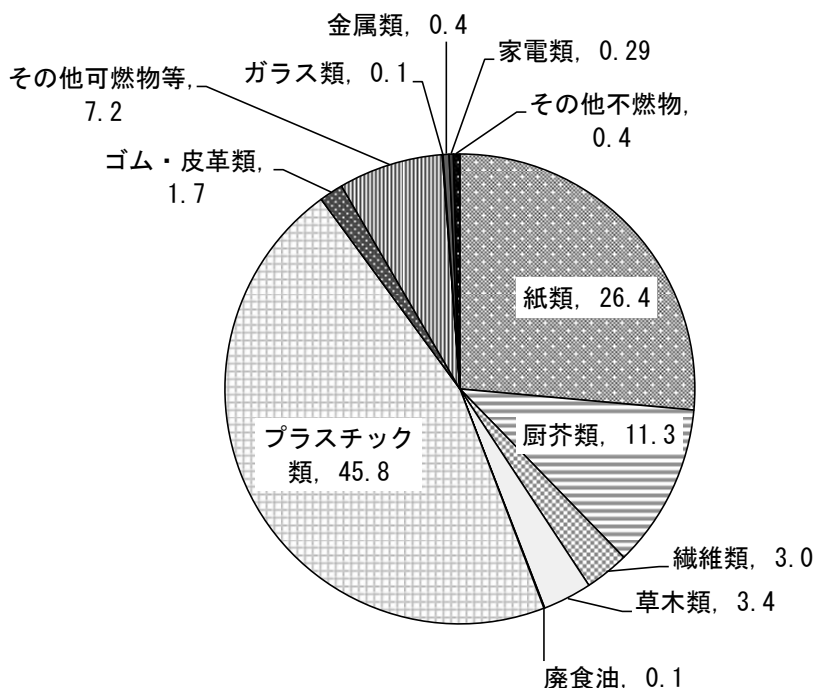


図 1.3.7 容積調査結果（燃やすごみ：家庭ごみと事業系ごみの合計）

イ) 家庭ごみ

ごみの容積を大分類で見ると、プラスチック類の占める割合が最も高く、全体の49.1%であった。次いで紙類が26.7%、厨芥類が8.6%の順であった。

表 1.3.10 容積調査結果（調査地域別）

大分類	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	全体 (平均)
調査地域	江東橋3	錦糸2	亀沢2	業平1~3	京島3	立花6	吾妻橋1	横川5	文花3	墨田5	千歳3	東向島6	向島4	
地域特性	繁華街地域		職住混在地域 (観光拠点)		職住混在地域			住居地域 (集合住宅)		住居地域 (集積所)		住居地域 (戸別偏在)		
紙類	21.9	30.9	28.2	27.0	29.0	24.8	29.9	26.7	23.1	28.6	21.1	29.2	26.1	26.7
厨芥類	16.2	12.4	8.1	6.1	5.2	8.9	7.4	5.9	6.2	9.2	8.2	8.0	9.5	8.6
繊維類	1.4	1.1	5.3	4.0	6.7	2.8	6.1	5.2	7.7	1.8	5.2	1.6	3.4	4.0
草木類	0.9	0.5	0.7	2.0	1.9	9.1	0.7	2.7	2.3	4.9	1.2	7.0	1.2	2.7
廃食油	0.0	0.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1
プラスチック類	49.7	48.0	52.8	49.5	47.4	50.0	45.4	48.8	50.2	46.9	57.8	47.3	44.0	49.1
ゴム・皮革類	1.3	0.9	0.0	2.7	0.2	0.3	1.9	2.2	1.3	2.6	1.3	1.1	1.9	1.4
その他可燃物等	7.8	5.3	3.9	6.4	8.7	4.0	5.9	8.5	9.0	3.9	4.8	5.4	11.9	6.6
ガラス類	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.4	0.1
金属類	0.5	0.2	0.2	2.0	0.9	0.1	1.3	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	1.3	0.5
家電類	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0
その他不燃物	0.0	0.0	0.4	0.1	0.0	0.1	0.9	0.0	0.0	1.9	0.2	0.0	0.4	0.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

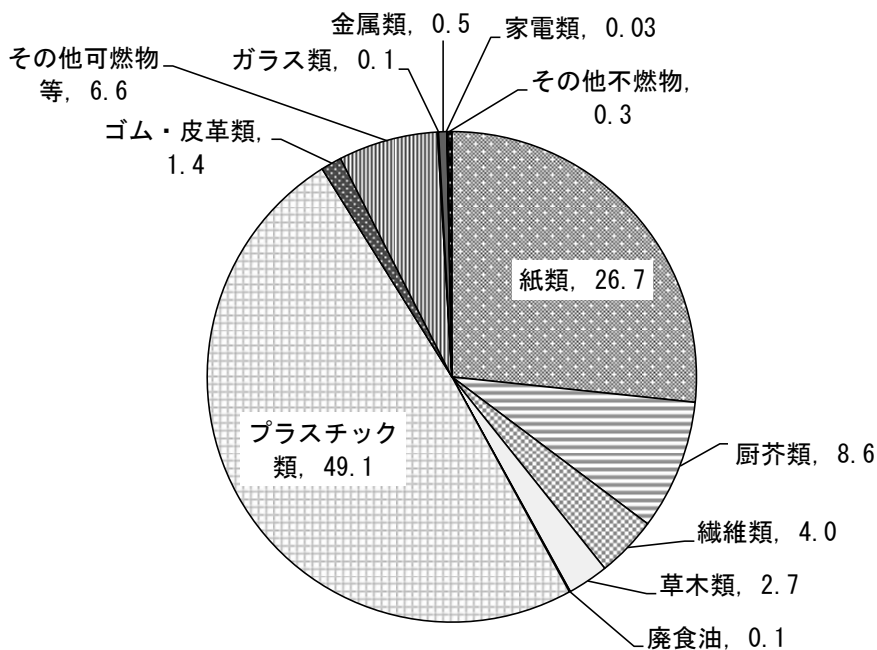


図 1.3.8 容積調査結果（燃やすごみ：家庭ごみ）

ウ) 事業系ごみ

ごみの容積を大分類で見ると、プラスチック類の占める割合が最も高く、全体の38.6%であった。次いで紙類が25.9%、厨芥類が17.2%の順であった。

表 1.3.11 容積調査結果（調査地域別）

大分類	調査地域						全体 (平均)
	A 江東橋3	B 錦糸2	C 亀沢2	F 立花6	G 吾妻橋1	K 千歳3	
地域特性	繁華街地域		職住混在地域 (観光拠点)	職住混在地域		住居地域 (集積所)	
紙類	17.8	32.9	25.1	44.0	16.8	19.1	25.9
厨芥類	53.5	9.4	10.8	0.0	2.0	27.3	17.2
繊維類	0.2	4.8	0.1	0.2	0.0	0.1	0.9
草木類	0.0	0.0	2.8	0.0	21.5	4.5	4.8
廃食油	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
プラスチック類	23.9	49.8	59.2	28.3	34.1	36.3	38.6
ゴム・皮革類	0.0	0.0	0.0	0.0	13.4	0.1	2.3
その他可燃物等	3.8	3.1	2.0	27.5	7.0	8.0	8.6
ガラス類	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
金属類	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
家電類	0.0	0.0	0.0	0.0	5.2	0.0	0.9
その他不燃物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	0.8
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

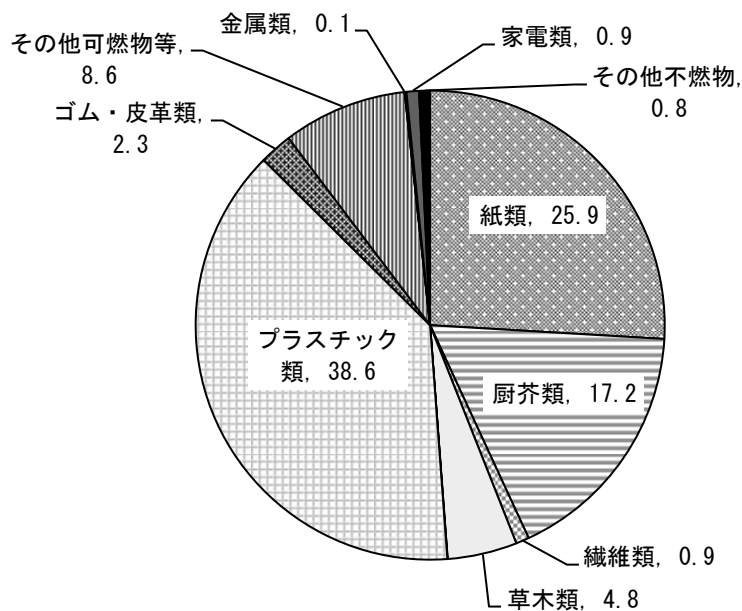


図 1.3.9 容積調査結果（燃やすごみ：事業系ごみ）

(4) 含水率（家庭ごみのみ）

ア) 生ごみ

生ごみの含水率をみると、全調査地域の平均で77.3%であった。

調査地域による特徴はみられず、概ね68%～87%の含水率となっている。

表 1.3.12 含水率（乾燥重量）調査結果（調査地域別）

調査地域	採取 (g)	乾燥後 (24時間後) (g)	乾燥後 (恒量を得るまで) (g)	固形分 (%)	減量分（含水率） (%)
亀沢2	706	570	207	29.3	70.7
	439	370	98	22.3	77.7
千歳3	739	600	135	18.3	81.7
	614	530	118	19.2	80.8
錦糸2	513	390	126	24.6	75.4
	449	380	118	26.3	73.7
横川5	738	590	149	20.2	79.8
	429	340	130	30.3	69.7
江東橋3	414	320	83	20.0	80.0
	542	440	111	20.5	79.5
吾妻橋1	443	350	114	25.7	74.3
	500	420	91	18.2	81.8
向島4	1,607	1,430	445	27.7	72.3
	347	270	64	18.4	81.6
京島3	1,081	930	145	13.4	86.6
	995	890	309	31.1	68.9
業平1～3	597	480	130	21.8	78.2
	570	430	122	21.4	78.6
墨田5	373	290	85	22.8	77.2
	546	480	124	22.7	77.3
東向島6	616	510	132	21.4	78.6
	484	420	90	18.6	81.4
立花6	484	370	87	18.0	82.0
	1,123	990	338	30.1	69.9
文花3	489	400	100	20.4	79.6
	674	550	182	27.0	73.0
全体（平均）	635	528	147	22.7	77.3

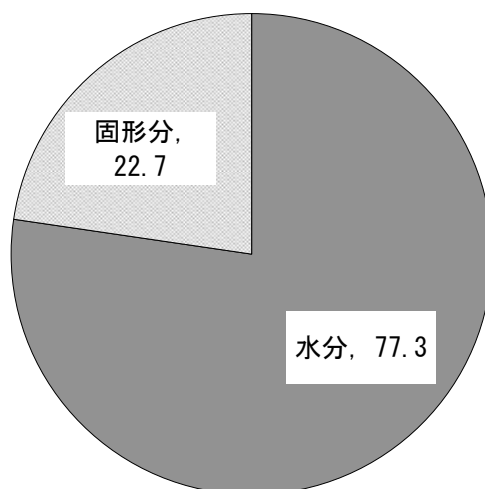


図 1.3.10 含水率調査結果（生ごみ：全体平均）

イ) 生ごみ以外

生ごみ以外のごみの含水率をみると、全調査地域の平均で 27.8%であった。

調査結果をみると、調査地域によって結果が大きく異なっているほか、同じ調査地域内でも 1 回目と 2 回目の調査で結果に差が出る等、傾向はみられなかった。

表 1.3.13 含水率（乾燥重量）調査結果（調査地域別）

調査地域	採取 (g)	乾燥後 (24時間後) (g)	乾燥後 (恒量を得るまで) (g)	固形分 (%)	減量分（含水率） (%)
亀沢2	328	310	269	82.0	18.0
	211	190	158	74.9	25.1
千歳3	411	390	334	81.3	18.7
	497	460	337	67.8	32.2
錦糸2	166	160	153	92.2	7.8
	336	320	159	47.3	52.7
横川5	463	430	210	45.4	54.6
	328	310	260	79.3	20.7
江東橋3	216	190	152	70.4	29.6
	456	420	255	55.9	44.1
吾妻橋1	250	240	229	91.6	8.4
	192	190	173	90.1	9.9
向島4	389	350	237	60.9	39.1
	328	300	224	68.3	31.7
京島3	329	310	248	75.4	24.6
	554	540	488	88.1	11.9
業平1～3	274	240	199	72.6	27.4
	331	310	268	81.0	19.0
墨田5	308	280	212	68.8	31.2
	283	260	144	50.9	49.1
東向島6	202	180	131	64.9	35.1
	170	160	143	84.1	15.9
立花6	228	210	175	76.8	23.2
	494	460	385	77.9	22.1
文花3	253	240	218	86.2	13.8
	1,233	1,140	519	42.1	57.9
全体（平均）	355	330	242	72.2	27.8

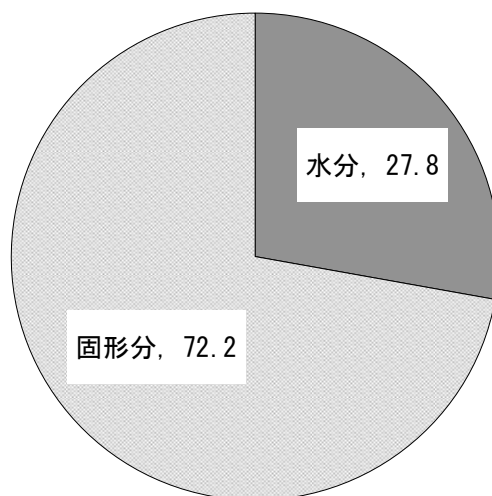


図 1.3.11 含水率調査結果（生ごみ以外：全体平均）

(5) 経年変化（家庭ごみと事業系ごみの合計）

ア) 湿重量

湿重量は、前回調査と比較して、厨芥類、繊維類、草木類、廃食油、その他可燃物等、ガラス類、金属類、家電類が増加しており、紙類、プラスチック類、ゴム・皮革類、その他不燃物は減少している。変化の大きい項目をみると、他の項目と比較して、紙類が減少し、厨芥類とその他可燃物等が増加している。

また、プラスチック類は、平成27年度の調査までは増加の傾向がみられていたが、今回の調査では減少に転じている。ただし、割合としては3番目に高い19.1%となっており、他の項目と比較して高い状態が続いている。

表 1.3.14 湿重量調査結果の経年変化

大分類	平成17年度	平成21年度	平成27年度	今回調査 (令和元年度)	前回との比較
紙類	32.9%	32.7%	35.4%	26.1%	9.3ポイント減
厨芥類	46.7%	30.7%	27.1%	32.0%	4.9ポイント増
繊維類	6.8%	5.4%	2.2%	4.5%	2.3ポイント増
草木類	7.5%	6.4%	2.6%	3.5%	0.9ポイント増
廃食油	0.0%	0.3%	0.0%	0.5%	0.5ポイント増
プラスチック類	3.6%	17.2%	22.6%	19.1%	3.5ポイント減
ゴム・皮革類	0.1%	0.6%	3.0%	2.6%	0.4ポイント減
その他可燃物等	1.4%	5.1%	3.7%	8.3%	4.6ポイント増
ガラス類	0.0%	0.6%	0.3%	0.4%	0.1ポイント増
金属類	0.1%	0.8%	0.2%	1.0%	0.8ポイント増
家電類	-	-	0.0%	1.0%	1.0ポイント増
その他不燃物	1.0%	0.3%	2.7%	1.0%	1.7ポイント減
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-

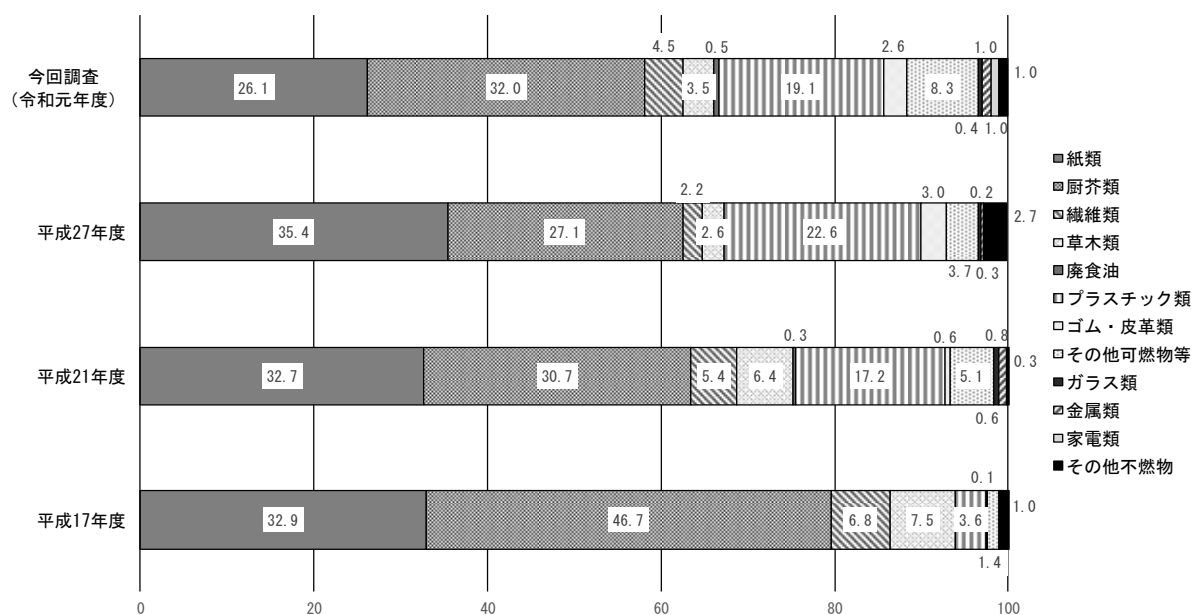


図 1.3.12 湿重量調査結果の経年変化

イ) 適正排出

適正に排出されているごみは 79.1%、適正に排出されていないごみは 20.9%となっており、適正排出の状況としては、前回調査と比較して 1.0 ポイントの減少となっている。

また、適正に排出されていないごみの内訳は、資源物が 12.6%、粗大系ごみ・適正処理困難物が 5.7%、集積所以外でリサイクルが 1.4%、燃やさないごみが 1.2%の順となっている。

項目別にみると、燃やさないごみ、集積所以外でリサイクル、粗大系ごみ・適正処理困難物が増加しており、燃やすごみ、資源物は減少している。

変化の大きい項目をみると、他の項目と比較して、粗大系ごみ・適正処理困難物が大きく増加し、資源物が大きく減少している。

表 1.3.15 適正排出調査結果の経年変化

項目	平成17年度	平成21年度	平成27年度	今回調査 (令和元年度)	前回との比較
燃やすごみ	72.8%	82.8%	80.1%	79.1%	1.0ポイント減
燃やさないごみ	2.6%	0.5%	1.0%	1.2%	0.2ポイント増
資源物	17.2%	13.7%	16.0%	12.6%	3.4ポイント減
集積所回収以外でリサイクル	6.4%	2.9%	0.4%	1.4%	1.0ポイント増
粗大系ごみ・適正処理困難物	1.0%	0.2%	2.5%	5.7%	3.2ポイント増
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-

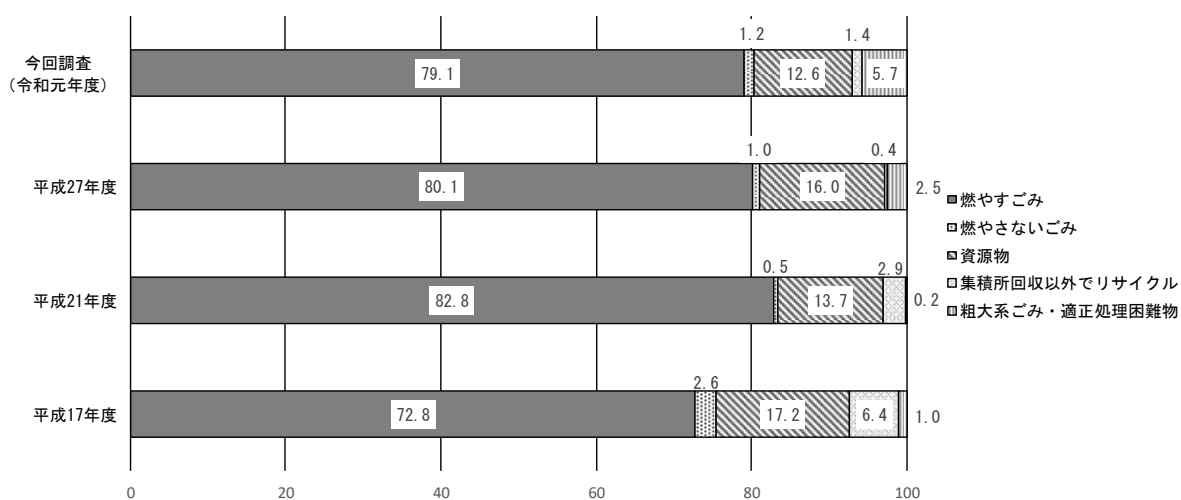


図 1.3.13 適正排出調査結果の経年変化

ウ) 含水率

a) 生ごみ

生ごみの含水率を各調査の平均で見ると、含水率は前回調査よりも減少しており、過去の調査結果と比較して最も低い77.3%であった。

地域別にみると、前回調査と比較が可能な12地域中、9地域で含水率は減少している。

表 1.3.16 含水率（乾燥重量）調査結果の経年変化（生ごみ）

地域		含水率 (%)					
		平成21年度		平成27年度		今回調査 (令和元年度)	
亀沢2	前半	-	-	86.7	84.6	70.7	74.2
	後半	-	-	82.4		77.7	
千歳3	前半	70.7	78.3	87.9	86.3	81.7	81.3
	後半	85.8		84.6		80.8	
錦糸2	前半	-	-	-	-	75.4	74.6
	後半	-	-	-	-	73.7	
横川5	前半	78.4	76.3	86.0	81.5	79.8	74.8
	後半	74.3		77.0		69.7	
江東橋3	前半	70.5	76.2	81.0	82.0	80.0	79.8
	後半	81.8		83.0		79.5	
吾妻橋1	前半	83.7	84.2	89.6	88.1	74.3	78.1
	後半	84.7		86.6		81.8	
向島4	前半	-	-	67.8	73.9	72.3	77.0
	後半	-	-	80.0		81.6	
京島3	前半	-	-	77.1	76.6	86.6	77.8
	後半	-	-	76.0		68.9	
業平1~3	前半	-	-	82.0	81.6	78.2	78.4
	後半	-	-	81.1		78.6	
墨田5	前半	-	-	72.6	80.2	77.2	77.3
	後半	-	-	87.8		77.3	
東向島6	前半	80.8	83.4	87.5	82.5	78.6	80.0
	後半	86.0		77.5		81.4	
立花6	前半	-	-	67.1	70.1	82.0	76.0
	後半	-	-	73.1		69.9	
文花3	前半	70.5	71.5	79.0	77.0	79.6	76.3
	後半	72.5		75.0		73.0	
全体（平均）		78.3		80.4		77.3	

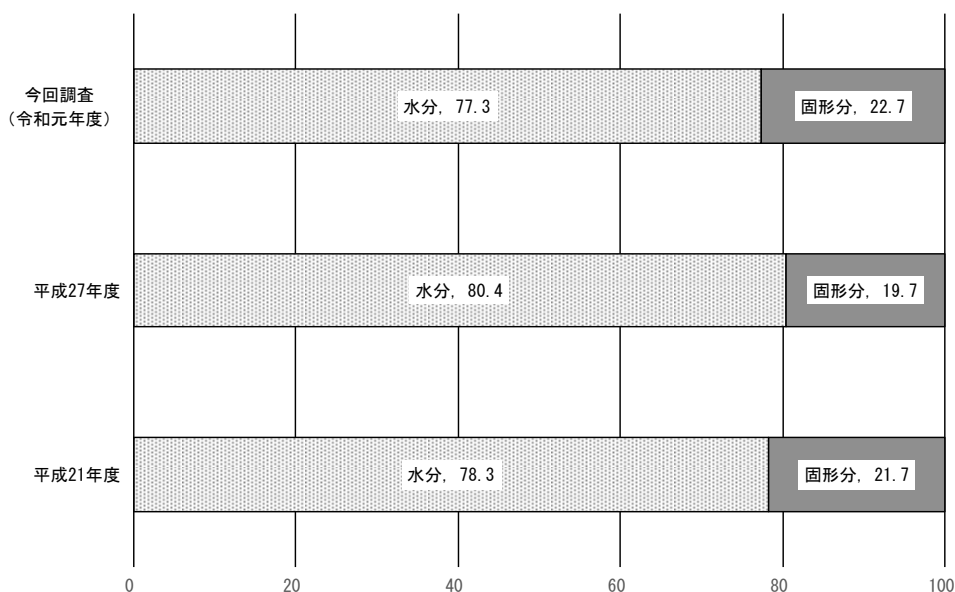


図 1.3.14 含水率（乾燥重量）調査結果の経年変化（生ごみ）

b) 生ごみ以外

生ごみ以外のごみの含水率を各調査の平均で見ると、含水率は前回調査よりも増加しており、過去の調査結果と比較して最も高い27.8%であった。

地域別にみると、前回調査と比較が可能な12地域中、9地域で含水率が増加している。

表 1.3.17 含水率（乾燥重量）調査結果の経年変化（生ごみ以外）

地域		含水率 (%)					
		平成21年度		平成27年度		今回調査 (令和元年度)	
亀沢2	前半	-	-	33.7	25.1	18.0	21.6
	後半	-	-	16.5		25.1	
千歳3	前半	14.6	15.2	10.6	14.1	18.7	25.5
	後半	15.8		17.5		32.2	
錦系2	前半	-	-	-	-	7.8	30.3
	後半	-	-	-	-	52.7	
横川5	前半	15.4	16.4	17.0	17.5	54.6	37.7
	後半	17.4		18.0		20.7	
江東橋3	前半	15.1	14.7	24.0	23.1	29.6	36.9
	後半	14.3		22.1		44.1	
吾妻橋1	前半	15.0	14.7	19.5	24.6	8.4	9.2
	後半	14.4		29.6		9.9	
向島4	前半	-	-	16.2	21.9	39.1	35.4
	後半	-	-	27.5		31.7	
京島3	前半	-	-	18.1	16.6	24.6	18.3
	後半	-	-	15.0		11.9	
業平1~3	前半	-	-	21.0	22.6	27.4	23.2
	後半	-	-	24.1		19.0	
墨田5	前半	-	-	23.2	22.0	31.2	40.2
	後半	-	-	20.8		49.1	
東向島6	前半	14.4	15.2	22.8	31.7	35.1	25.5
	後半	16.1		40.5		15.9	
立花6	前半	-	-	25.1	22.5	23.2	22.7
	後半	-	-	19.9		22.1	
文花3	前半	14.3	14.5	17.1	21.1	13.8	35.9
	後半	14.8		25.1		57.9	
全体（平均）		15.1		21.9		27.8	

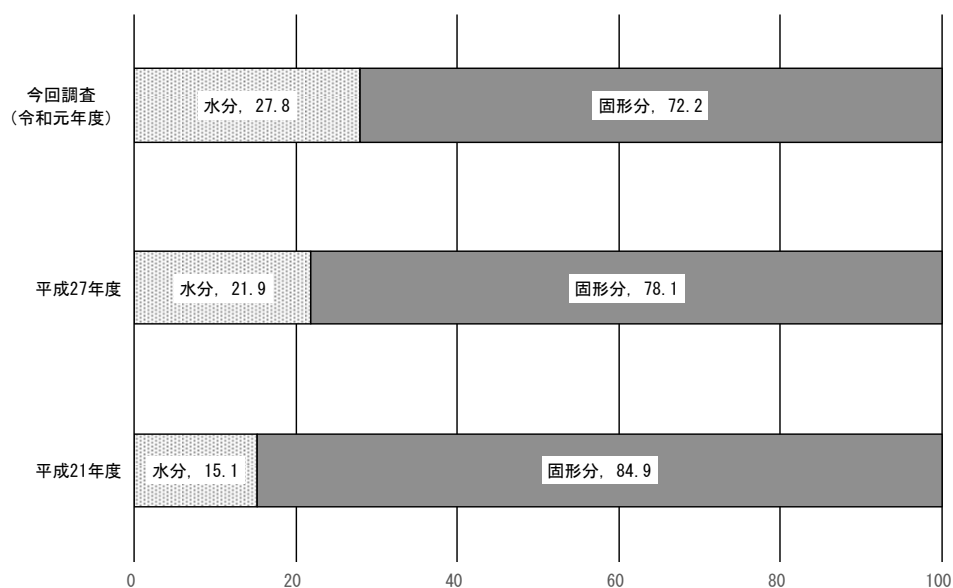


図 1.3.15 含水率（乾燥重量）調査結果の経年変化（生ごみ以外）

1.3.2 燃やさないごみ

(1) 湿重量（組成）

ア) 家庭ごみと事業系ごみの合計

ごみの組成を大分類で見ると、その他不燃物の占める割合が最も高く、22.9%であった。次いで、その他可燃物等が20.0%、金属類が19.4%であった。

ごみの組成を中分類で見ると、その他可燃物等が占める割合が最も高く、20.0%であった。次いで、鉄類が14.7%、陶磁器類が12.5%であった。

表 1.3.18 湿重量（組成）調査結果（調査地域別）

(%)

大分類	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	全体 (平均)
調査地域	江東橋3	錦糸2	亀沢2	業平1~3	京島3	立花6	吾妻橋1	横川5	文花3	墨田5	千歳3	東向島6	向島4	
地域特性	繁華街地域		職住混在地域 (観光拠点)		職住混在地域			住居地域 (集合住宅)		住居地域 (集積所)		住居地域 (戸別偏在)		
紙類	0.9	2.4	0.3	1.7	6.1	2.1	5.6	2.7	1.8	0.8	1.0	0.2	1.0	1.8
厨芥類	2.1	0.0	0.0	5.7	0.0	15.7	3.5	2.6	0.0	1.4	0.5	0.0	0.0	2.4
繊維類	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
草木類	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.2	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
廃食油	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
プラスチック類	10.9	4.6	6.6	3.0	8.2	3.0	11.7	7.2	4.3	8.4	6.9	10.7	3.7	7.0
ゴム・皮革類	1.1	0.0	0.2	0.1	0.2	0.0	0.0	8.1	0.2	0.0	0.6	0.0	1.0	0.8
その他可燃物等	21.3	28.4	12.1	21.3	29.4	9.0	16.9	26.7	14.8	40.8	3.2	16.2	12.9	20.0
ガラス類	25.9	12.0	18.4	43.7	17.2	11.7	34.6	9.5	18.2	6.3	6.9	10.3	11.2	18.2
金属類	19.6	16.7	24.5	8.9	10.7	19.5	14.7	8.3	15.9	19.9	42.1	17.8	20.8	19.4
家電類	4.2	7.7	2.1	0.7	8.1	1.7	3.1	9.7	16.3	1.9	19.4	12.9	12.7	7.4
その他不燃物	14.0	28.3	35.7	14.7	20.1	37.3	9.8	24.2	28.2	20.4	19.3	31.9	36.7	22.9
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

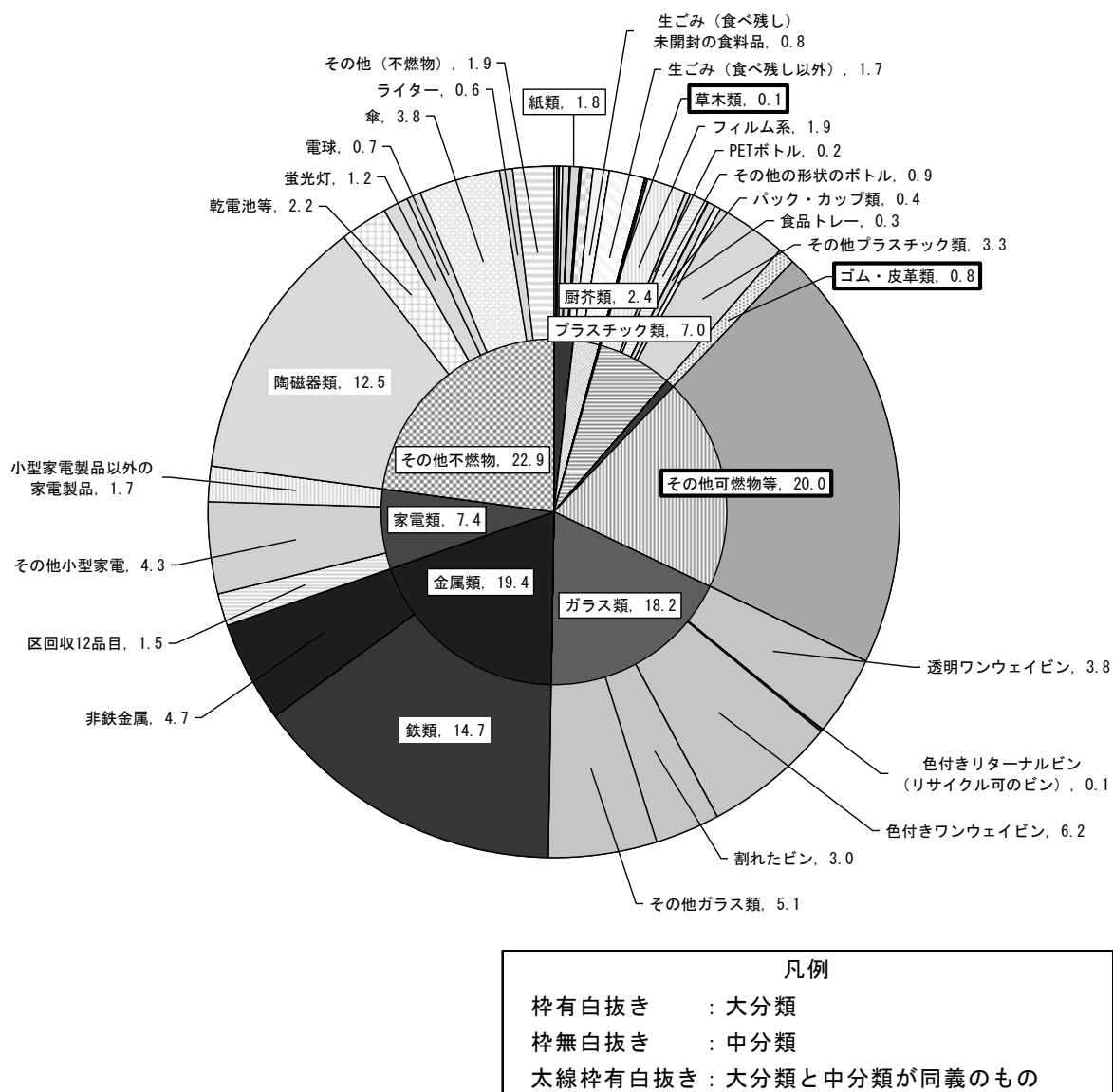


図 1.3.16 湿重量（組成）調査結果（燃やさないごみ：家庭ごみと事業系ごみの合計）

イ) 家庭ごみ

ごみの組成を大分類で見ると、その他不燃物の占める割合が最も高く、28.6%であった。次いでその他可燃物等が17.5%、金属類が16.8%であった。

ごみの組成を中分類で見ると、その他不燃物等が占める割合が最も高く、17.5%であった。次いで、陶磁器類が16.0%、鉄類が12.2%であった。

各地域の特徴については表1.3.20に示す。

表 1.3.19 湿重量調査結果（調査地域別）

(%)

大分類	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	全体 (平均)
調査地域	江東橋3	錦糸2	亀沢2	業平1~3	京島3	立花6	吾妻橋1	横川5	文花3	墨田5	千歳3	東向島6	向島4	
地域特性	繁華街地域		職住混在地域 (観光拠点)		職住混在地域			住居地域 (集合住宅)		住居地域 (集積所)		住居地域 (戸別偏在)		
紙類	1.9	2.4	0.3	3.3	6.1	2.1	5.6	2.7	1.8	1.3	2.1	0.2	1.0	2.4
厨芥類	4.1	0.0	0.0	11.5	0.0	15.7	3.5	2.6	0.0	2.7	0.9	0.0	0.0	3.2
繊維類	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1
草木類	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.2	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
廃食油	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
プラスチック類	8.9	4.6	6.6	5.9	8.2	3.0	11.7	7.2	4.3	15.7	9.8	10.7	3.7	7.7
ゴム・皮革類	0.3	0.0	0.2	0.1	0.2	0.0	0.0	8.1	0.2	0.0	1.1	0.0	1.0	0.9
その他可燃物等	12.7	28.4	12.1	30.4	29.4	9.0	16.9	26.7	14.8	11.0	6.5	16.2	12.9	17.5
ガラス類	25.0	12.0	18.4	10.3	17.2	11.7	34.6	9.5	18.2	12.6	13.8	10.3	11.2	15.8
金属類	16.6	16.7	24.5	10.9	10.7	19.5	14.7	8.3	15.9	21.2	20.7	17.8	20.8	16.8
家電類	5.8	7.7	2.1	0.1	8.1	1.7	3.1	9.7	16.3	3.9	9.0	12.9	12.7	7.2
その他不燃物	24.7	28.3	35.7	27.1	20.1	37.3	9.8	24.2	28.2	31.4	36.0	31.9	36.7	28.6
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

1. 家庭ごみ及び事業系ごみ排出実態調査

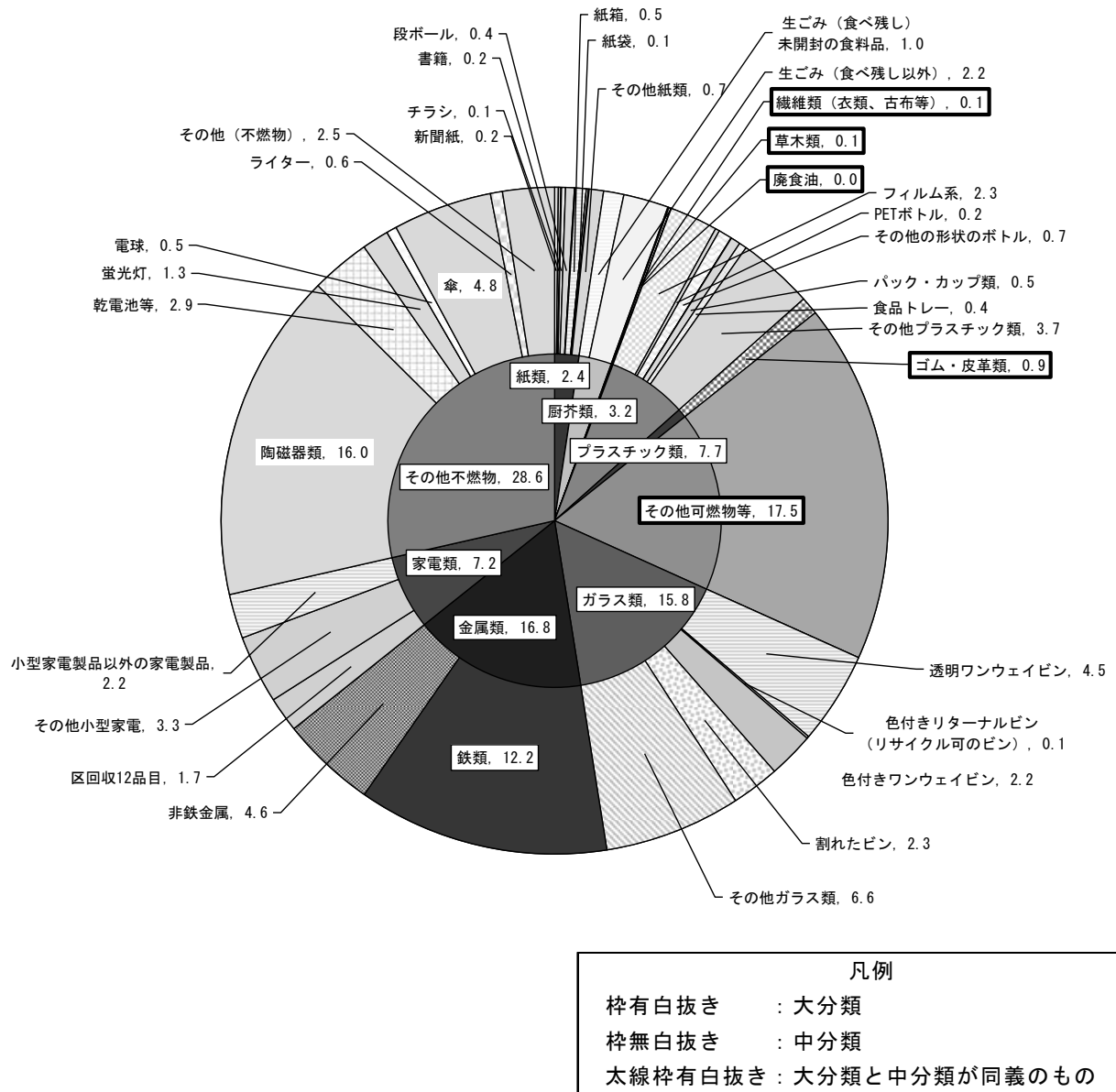


図 1.3.17 湿重量 (組成) 調査結果 (燃やさないごみ: 家庭ごみ)

表 1.3.20 各地域の特徴（燃やさないごみ：家庭ごみ）

大分類	調査地域	地域特性	ごみ組成の特徴	
	全体		<p>その他不燃物、その他可燃物等、金属類が占める割合が高い。 ごみの組成を中分類で見ると、その他可燃物等、その他不燃物中の陶磁器類、金属類中の鉄類の占める割合が高い。</p>	
A	江東橋 3	繁華街地域	<ul style="list-style-type: none"> ・地域によって占める割合が高い品目が異なる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・厨芥類、プラスチック類、ガラス類の占める割合が平均より高い。
B	錦糸 2			<ul style="list-style-type: none"> ・その他可燃物等の占める割合が平均より高い。
C	亀沢 2	職住混在地域 (観光拠点)	<ul style="list-style-type: none"> ・その他可燃物等、その他不燃物の占める割合が平均より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガラス類、金属類、その他不燃物(乾電池等)の占める割合が平均より高い。
D	業平 1~3			<ul style="list-style-type: none"> ・厨芥類、その他可燃物等の占める割合が平均より高い。
E	京島 3	職住混在地域	<ul style="list-style-type: none"> ・地域によって占める割合が高い品目が異なる。 ・事業系ごみが不適正排出されていた可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙類、プラスチック類、その他可燃物等、ガラス類の占める割合が平均より高い。
F	立花 6			<ul style="list-style-type: none"> ・厨芥類、金属類、その他不燃物の占める割合が平均より高い。 ・厨芥類は事業系ごみが不適正排出されていた可能性がある。
G	吾妻橋 1			<ul style="list-style-type: none"> ・紙類、プラスチック類、ガラス類の占める割合が平均より高い。
H	横川 5	住居地域 (集合住宅)	<ul style="list-style-type: none"> ・家電類の占める割合が平均より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴム・皮革類、その他可燃物等、家電類の占める割合が平均より高い。
I	文花 3			<ul style="list-style-type: none"> ・ガラス類、家電類の占める割合が平均より高い。
J	墨田 5	住居地域 (集積所)	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック類、金属類の占める割合が平均より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック類、金属類、その他不燃物の占める割合が平均より高い。
K	千歳 3			<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック類、金属類、家電類の占める割合が平均より高い。
L	東向島 6	住居地域 (戸別偏在)	<ul style="list-style-type: none"> ・金属類、家電類、その他不燃物の占める割合が平均より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック類、金属類、家電類、その他不燃物の占める割合が平均より高い。
M	向島 4			<ul style="list-style-type: none"> ・金属類、家電類、その他不燃物の占める割合が平均より高い。

ウ) 事業系ごみ

ごみの組成を大分類で見ると、その他可燃物等の占める割合が最も高く、28.2%であった。次いで金属類が27.9%、ガラス類が26.0%であった。

ごみの組成を中分類で見ると、その他可燃物等が占める割合が最も高く、28.2%であった。次いで、鉄類が22.8%、色付きワンウェイビンが19.2%であった。

各地域の特徴については表 1.3.22 に示す。

表 1.3.21 湿重量調査結果（調査地域別）

(%)

大分類	A	D	J	K	全体 (平均)
調査地域	江東橋3	業平1~3	墨田5	千歳3	
地域特性	繁華街地域	職住混在地域 (観光拠点)	住居地域 (集積所)		
紙類	0.0	0.0	0.3	0.0	0.1
厨芥類	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
繊維類	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
草木類	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
廃食油	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
プラスチック類	12.8	0.2	1.0	4.1	4.5
ゴム・皮革類	2.0	0.0	0.0	0.0	0.5
その他可燃物等	29.9	12.2	70.7	0.0	28.2
ガラス類	26.8	77.2	0.0	0.0	26.0
金属類	22.6	6.9	18.7	63.5	27.9
家電類	2.5	1.2	0.0	29.7	8.4
その他不燃物	3.4	2.2	9.3	2.7	4.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

1. 家庭ごみ及び事業系ごみ排出実態調査

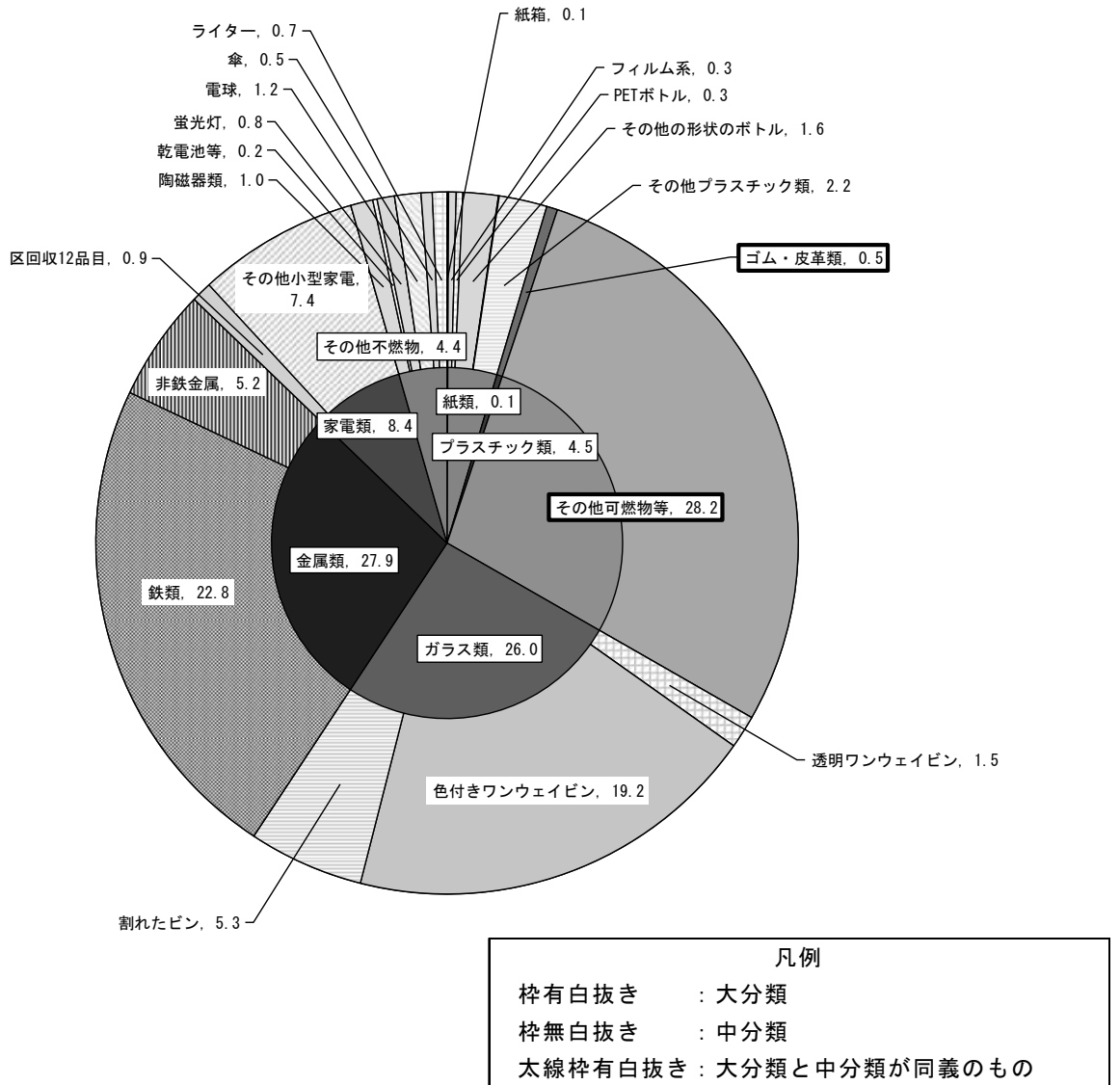


図 1.3.18 湿重量（組成）調査結果（燃やさないごみ：事業系ごみ）

表 1.3.22 各地域の特徴（燃やさないごみ：事業系ごみ）

大分類	調査地域	地域特性	ごみ組成の特徴	
	全体		<p>サンプル数が少なく、組成も地域によって偏りがあるが、平均で見るとその他可燃物等、金属類、ガラス類が占める割合が高い。</p> <p>ごみの組成を中分類で見ると、その他可燃物等、金属類中の鉄類、ガラス類中の色付きワンウェイビンが占める割合が高い。</p>	
A	江東橋 3	繁華街地域	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック類の占める割合が平均値より高い。 	
D	業平 1~3	職住混在地域 (観光拠点)	<ul style="list-style-type: none"> ・色付きワンウェイビンの占める割合が非常に高い。 	
J	墨田 5	住居地域 (集積所)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域によって占める割合が高い品目が異なる。 ・家庭で不要となったその他可燃物等、金属類（空き缶、ボンベ等）、墨田区で回収していない小型家電が多く排出されていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その他可燃物等の占める割合が平均値より高い。
K	千歳 3		<ul style="list-style-type: none"> ・金属類とその他小型家電で大部分が占められている。 	

(2) 適正排出

ア) 家庭ごみと事業系ごみの合計

適正に排出されているごみの割合は50.1%であった。

適正に排出されていないごみの内訳を割合が大きい順にみると、粗大系ごみ・適正処理困難物が19.3%、資源物が13.6%、燃やすごみが10.7%、集積所以外でリサイクルが可能なごみが6.4%であった。

表 1.3.23 適正排出調査結果（調査地域別）

大分類 調査地域	A		B		C		D		E		F		G		H		I		J		K		L		M		全体 (平均)
	江東橋3	錦糸2	亀沢2	乗平1~3	京島3	立花6	吾妻橋1	横川5	文花3	墨田5	千歳3	東向島6	向島4	住居地域 (集合住宅)	住居地域 (集積所)	住居地域 (戸別偏在)											
地域特性	繁華街地域		職住混在地域 (観光拠点)		職住混在地域		職住混在地域		職住混在地域		職住混在地域		職住混在地域		住居地域 (集合住宅)		住居地域 (集積所)		住居地域 (戸別偏在)		住居地域 (戸別偏在)		住居地域 (戸別偏在)				
燃やすごみ	11.8	4.4	7.1	9.6	7.9	19.8	19.5	20.5	5.2	10.1	8.4	9.7	5.1	10.7													10.7
燃やさないごみ	39.7	48.8	64.5	22.2	40.6	57.7	42.1	34.4	65.4	40.7	77.9	55.9	60.8	50.1													50.1
資源物	22.7	12.4	4.4	44.8	17.6	8.5	20.1	6.9	5.2	4.5	6.0	12.5	10.8	13.6													13.6
集積所回収以外で リサイクル	4.6	6.2	12.0	2.3	4.5	5.1	4.7	11.5	9.4	4.0	4.5	5.4	9.2	6.4													6.4
粗大系ごみ・適正 処理困難物	21.2	28.3	12.1	21.2	29.4	8.9	13.6	26.7	14.8	40.7	3.2	16.5	14.2	19.3													19.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0													100.0

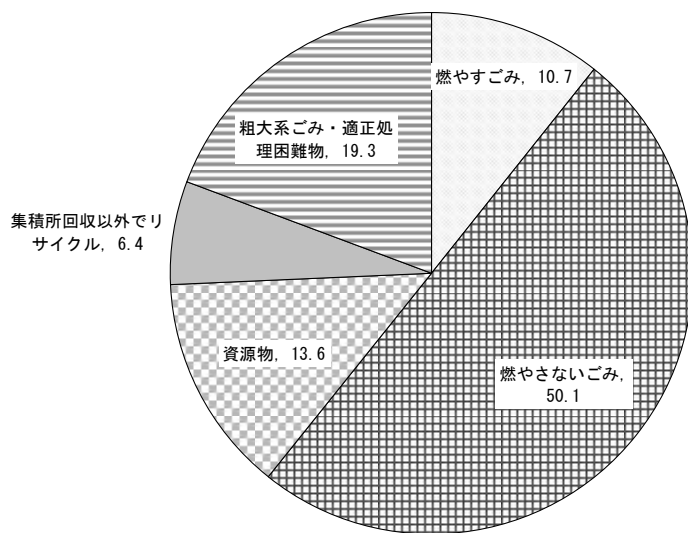


図 1.3.19 適正排出調査結果（燃やさないごみ：家庭ごみと事業系ごみの合計）

イ) 家庭ごみ

適正に排出されているごみの割合は51.8%であった。

適正に排出されていないごみの内訳を割合が大きい順にみると、粗大系ごみ・適正処理困難物が17.3%、燃やすごみが12.6%、資源物が11.1%、集積所以外でリサイクル可能なごみが7.2%であった。

表 1.3.24 適正排出調査結果（調査地域別）

大分類	A		B		C		D		E		F		G		H		I		J		K		L		M		全体 (平均)
	調査地域		調査地域		調査地域		調査地域		調査地域		調査地域		調査地域		調査地域		調査地域		調査地域		調査地域		調査地域		調査地域		
地域特性	繁華街地域				職住混在地域 (観光拠点)				職住混在地域				住居地域 (集合住宅)				住居地域 (集積所)				住居地域 (戸別偏在)						
燃やすごみ	13.6	4.4	7.1	18.9	7.9	19.8	19.5	20.5	5.2	19.1	12.8	9.7	5.1	12.6													
燃やさないごみ	54.2	48.8	64.5	36.0	40.6	57.7	42.1	34.4	65.4	53.4	59.9	55.9	60.8	51.8													
資源物	13.0	12.4	4.4	12.3	17.6	8.5	20.1	6.9	5.2	8.8	11.9	12.5	10.8	11.1													
集積所回収以外 でリサイクル	6.6	6.2	12.0	2.6	4.5	5.1	4.7	11.5	9.4	8.0	9.0	5.4	9.2	7.2													
粗大系ごみ・適 正処理困難物	12.6	28.3	12.1	30.2	29.4	8.9	13.6	26.7	14.8	10.8	6.4	16.5	14.2	17.3													
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0													

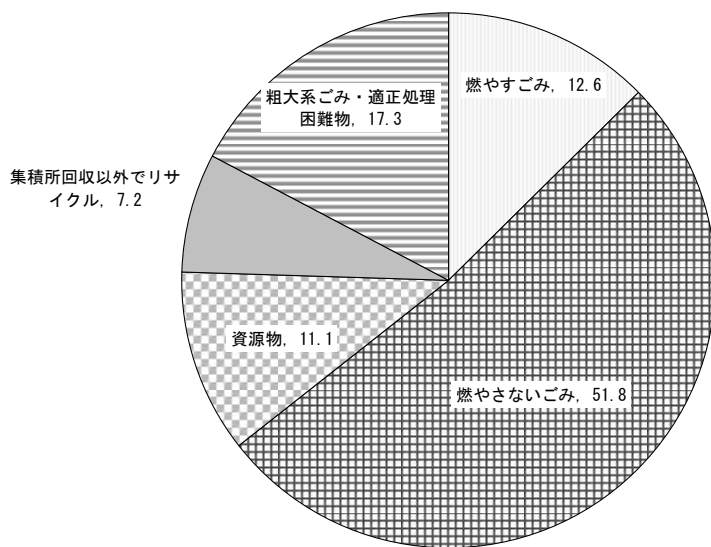


図 1.3.20 適正排出調査結果（燃やさないごみ：家庭ごみ）

ウ) 事業系ごみ

適正に排出されているごみの割合は 39.4%であった。

適正に排出されていないごみの内訳を割合が大きい順にみると、粗大系ごみ・適正処理困難物が 28.2%、資源物が 27.5%、燃やすごみが 3.8%、集積所以外でリサイクル可能なごみが 1.1%であった。

表 1.3.25 適正排出調査結果（調査地域別）

大分類	A	D	J	K	全体
	調査地域	業平1~3	墨田5	千歳3	
地域特性	江東橋3 繁華街地域	職住混在地域 (観光拠点)	住居地域 (集積所)		
燃やすごみ	9.9	0.2	1.0	4.1	3.8
燃やさないごみ	25.1	8.4	28.0	95.9	39.4
資源物	32.5	77.2	0.3	0.0	27.5
集積所回収以外でリサイクル	2.5	2.0	0.0	0.0	1.1
粗大系ごみ・適正処理困難物	29.9	12.2	70.7	0.0	28.2
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

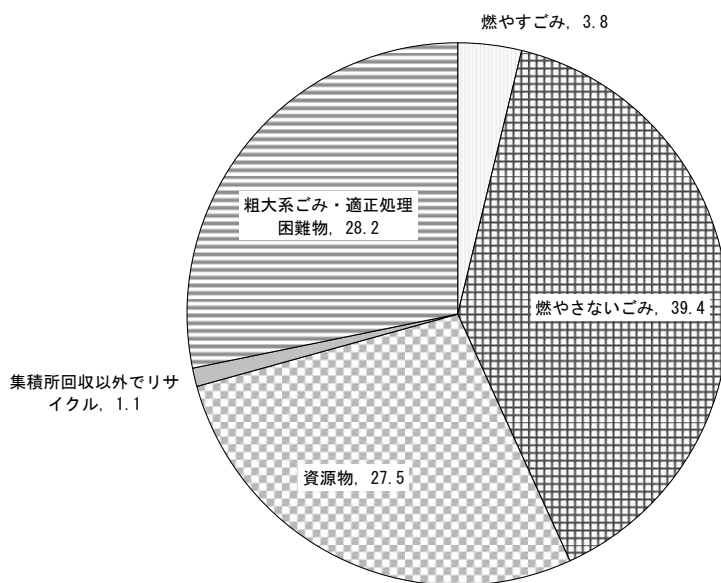


図 1.3.21 適正排出調査結果（燃やさないごみ：事業系ごみ）

(3) 容積

ア) 家庭ごみと事業系ごみの合計

ごみの容積を大分類でみると、金属類の占める割合が最も高く、全体の 30.4%であった。次いでプラスチック類が 22.4%、その他不燃物が 13.8%であった。

表 1.3.26 容積調査結果（調査地域別）

大分類	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	全体 (平均)
調査地域	江東橋3	錦糸2	亀沢2	業平1~3	京島3	立花6	吾妻橋1	横川5	文花3	墨田5	千歳3	東向島6	向島4	
地域特性	繁華街地域		職住混在地域 (観光拠点)		職住混在地域			住居地域 (集合住宅)		住居地域 (集積所)		住居地域 (戸別偏在)		
紙類	1.2	3.3	3.6	2.0	8.5	5.9	6.9	13.9	12.9	7.4	3.7	1.6	9.5	5.6
厨芥類	0.1	0.0	0.0	2.3	3.4	5.7	2.7	4.9	0.0	0.1	0.2	0.0	0.1	1.3
繊維類	0.0	0.0	0.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
草木類	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
廃食油	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
プラスチック類	32.4	12.0	23.7	9.9	28.2	20.6	37.8	32.3	19.0	28.4	11.0	25.9	17.2	22.4
ゴム・皮革類	0.4	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	3.7	0.2	0.0	0.2	0.0	0.9	0.4
その他可燃物等	10.9	25.5	10.9	4.6	24.1	7.4	7.6	12.3	12.8	17.7	2.2	8.8	9.8	11.2
ガラス類	5.1	10.4	5.2	38.1	11.7	6.8	12.2	4.1	7.7	2.7	4.3	2.6	8.6	10.0
金属類	29.7	20.1	31.6	31.0	11.7	30.3	29.2	11.0	15.2	29.3	58.0	46.9	25.3	30.4
家電類	6.8	9.7	1.2	0.1	3.8	0.3	1.5	1.5	16.8	1.9	8.4	2.1	8.1	4.7
その他不燃物	13.4	19.1	23.7	9.3	8.4	23.0	2.0	16.0	15.4	12.4	12.0	12.1	20.5	13.8
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

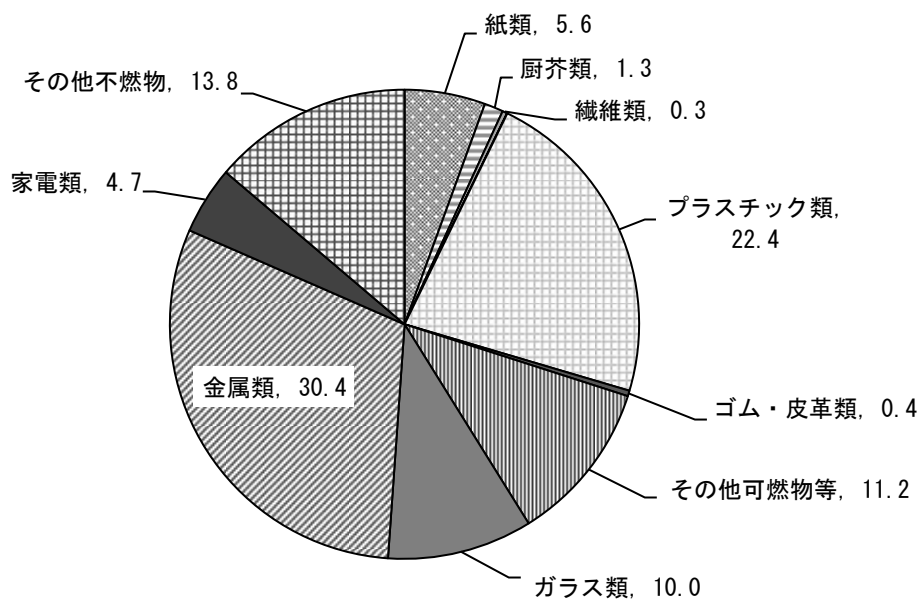


図 1.3.22 容積調査結果 (燃やさないごみ : 家庭ごみと事業系ごみの合計)

イ) 家庭ごみ

ごみの容積を大分類で見ると、金属類の占める割合が最も高く、全体の 25.6%であった。次いでプラスチック類が 22.4%、その他不燃物が 17.4%であった。

表 1.3.27 容積調査結果（調査地域別）

大分類	調査地域													全体 (平均)	
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M		
調査地域	江東橋3	錦糸2	亀沢2	業平1~3	京島3	立花6	吾妻橋1	横川5	文花3	墨田5	千歳3	東向島6	向島4		
地域特性	繁華街地域		職住混在地域 (観光拠点)		職住混在地域			住居地域 (集合住宅)		住居地域 (集積所)		住居地域 (戸別偏在)			
紙類	2.3	3.3	3.6	4.0	8.5	5.9	6.9	13.9	12.9	13.1	7.4	1.6	9.5	7.1	
厨芥類	0.1	0.0	0.0	4.5	3.4	5.7	2.7	4.9	0.0	0.2	0.3	0.0	0.1	1.7	
繊維類	0.0	0.0	0.0	5.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	
草木類	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
廃食油	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
プラスチック類	16.5	12.0	23.7	19.5	28.2	20.6	37.8	32.3	19.0	20.5	18.0	25.9	17.2	22.4	
ゴム・皮革類	0.1	0.0	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	3.7	0.2	0.0	0.4	0.0	0.9	0.4	
その他可燃物等	8.5	25.5	10.9	9.2	24.1	7.4	7.6	12.3	12.8	8.3	4.3	8.8	9.8	11.5	
ガラス類	9.0	10.4	5.2	10.4	11.7	6.8	12.2	4.1	7.7	5.3	8.7	2.6	8.6	7.9	
金属類	25.5	20.1	31.6	28.9	11.7	30.3	29.2	11.0	15.2	27.8	29.1	46.9	25.3	25.6	
家電類	11.4	9.7	1.2	0.1	3.8	0.3	1.5	1.5	16.8	3.8	10.2	2.1	8.1	5.4	
その他不燃物	26.5	19.1	23.7	17.9	8.4	23.0	2.0	16.0	15.4	20.9	21.4	12.1	20.5	17.4	
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

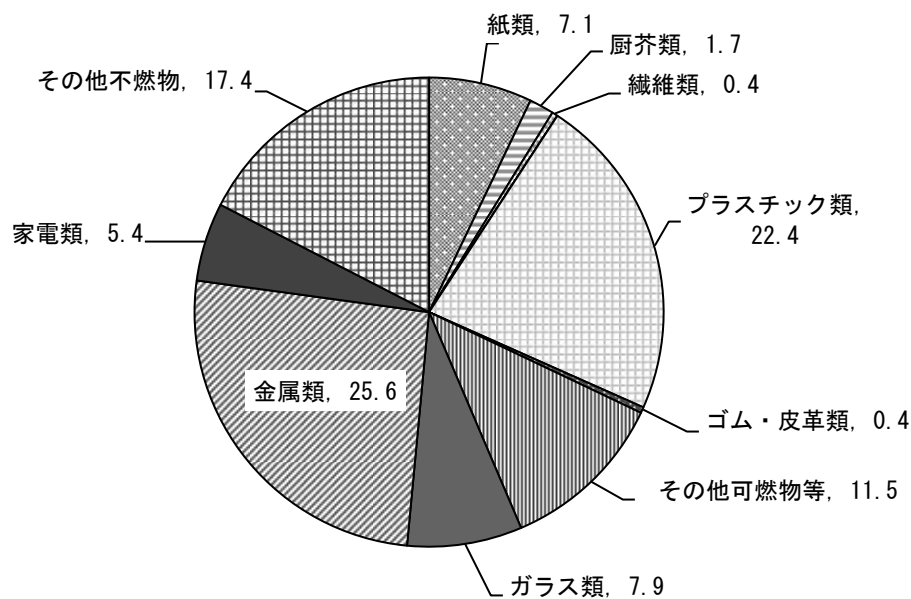


図 1.3.23 容積調査結果（燃やさないごみ：家庭ごみ）

ウ) 事業系ごみ

ごみの容積を大分類で見ると、金属類の占める割合が最も高く、全体の 46.2%であった。次いでプラスチック類が 22.2%、ガラス類が 16.8%であった。

表 1.3.28 容積調査結果（調査地域別）

(%)

大分類	A	D	J	K	全体 (平均)
調査地域	江東橋3	業平1~3	墨田5	千歳3	
地域特性	繁華街地域	職住混在地域 (観光拠点)	住居地域 (集積所)		
紙類	0.0	0.0	1.8	0.0	0.5
厨芥類	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
繊維類	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
草木類	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
廃食油	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
プラスチック類	48.3	0.3	36.3	3.9	22.2
ゴム・皮革類	0.7	0.0	0.0	0.0	0.2
その他可燃物等	13.3	0.0	27.2	0.0	10.1
ガラス類	1.3	65.8	0.0	0.0	16.8
金属類	33.9	33.2	30.9	86.8	46.2
家電類	2.2	0.0	0.0	6.6	2.2
その他不燃物	0.4	0.7	3.8	2.6	1.9
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

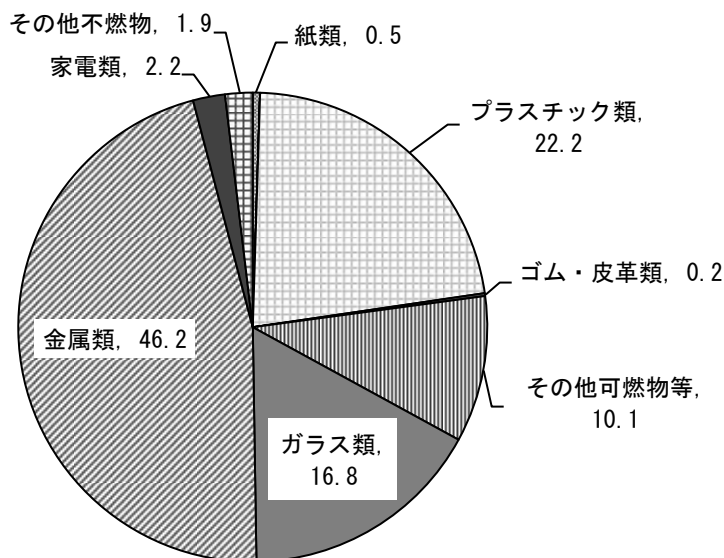


図 1.3.24 容積調査結果（燃やさないごみ：事業系ごみ）

(4) 経年変化

ア) 湿重量（組成）

紙類、厨芥類、その他可燃物等、家電類が増加しており、繊維類、草木類、プラスチック類、ゴム・皮革類、ガラス類、金属類、その他不燃物は減少している。廃食油は変化なしであった。

変化の大きい項目をみると、他の項目と比較して、その他可燃物等が大きく増加し、金属類が大きく減少している。

表 1.3.29 湿重量（組成）調査結果の経年変化

大分類	平成17年度	平成21年度	平成27年度	今回調査 (令和元年度)	前回との比較
紙類	3.3%	1.4%	1.2%	1.8%	0.6ポイント増
厨芥類	5.7%	0.2%	0.5%	2.4%	1.9ポイント増
繊維類	0.8%	0.6%	0.1%	0.0%	0.1ポイント減
草木類	0.8%	0.9%	0.8%	0.1%	0.7ポイント減
廃食油	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	変化なし
プラスチック類	49.0%	15.8%	8.6%	7.0%	1.6ポイント減
ゴム・皮革類	3.2%	0.9%	1.5%	0.8%	0.7ポイント減
その他可燃物等	2.3%	3.5%	0.6%	20.0%	19.4ポイント増
ガラス類	15.8%	16.5%	20.8%	18.2%	2.6ポイント減
金属類	11.2%	41.5%	32.1%	19.4%	12.7ポイント減
家電類	0.0%	0.0%	7.2%	7.4%	0.2ポイント増
その他不燃物	8.0%	18.8%	26.7%	22.9%	3.8ポイント減
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-

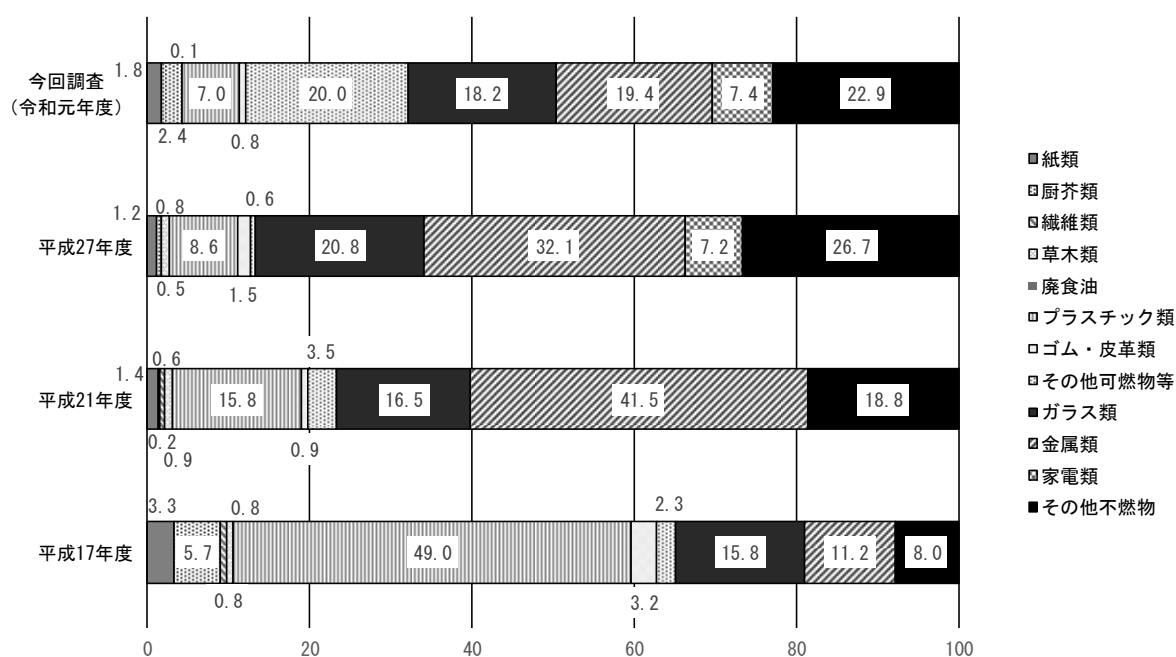


図 1.3.25 湿重量（組成）調査結果の経年変化

イ) 適正排出

適正に排出されているごみは 50.1%、適正に排出されていないごみは 49.9% となっており、適正排出の状況としては、前回調査と比較して 13.4 ポイントの減少となっている。

また、適正に排出されていないごみの内訳は、粗大系ごみ・適正処理困難物が 19.3%、資源物が 13.6%、燃やすごみが 10.7%、集積所回収以外でリサイクルが 6.4% の順となっており、粗大系ごみ・適正処理困難物の不適正排出が大きく増加している。

項目別にみると、集積所回収以外でリサイクル、粗大系ごみ・適正処理困難物が増加しており、燃やすごみ、燃やさないごみ、資源物は減少している。

変化の大きい項目をみると、他の項目と比較して、粗大系ごみ・適正処理困難物が大きく増加し、燃やさないごみが大きく減少している。

表 1.3.30 適正排出調査結果の経年変化

項目	平成17年度	平成21年度	平成27年度	今回調査 (令和元年度)	前回との比較
燃やすごみ	14.4%	22.1%	12.0%	10.7%	1.3ポイント減
燃やさないごみ	50.6%	60.8%	63.5%	50.1%	13.4ポイント減
資源物	30.1%	14.9%	17.0%	13.6%	3.4ポイント減
集積所回収以外でリサイクル	1.0%	1.1%	4.4%	6.4%	2.0ポイント増
粗大系ごみ・適正処理困難物	3.9%	1.2%	3.1%	19.3%	16.2ポイント増
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-

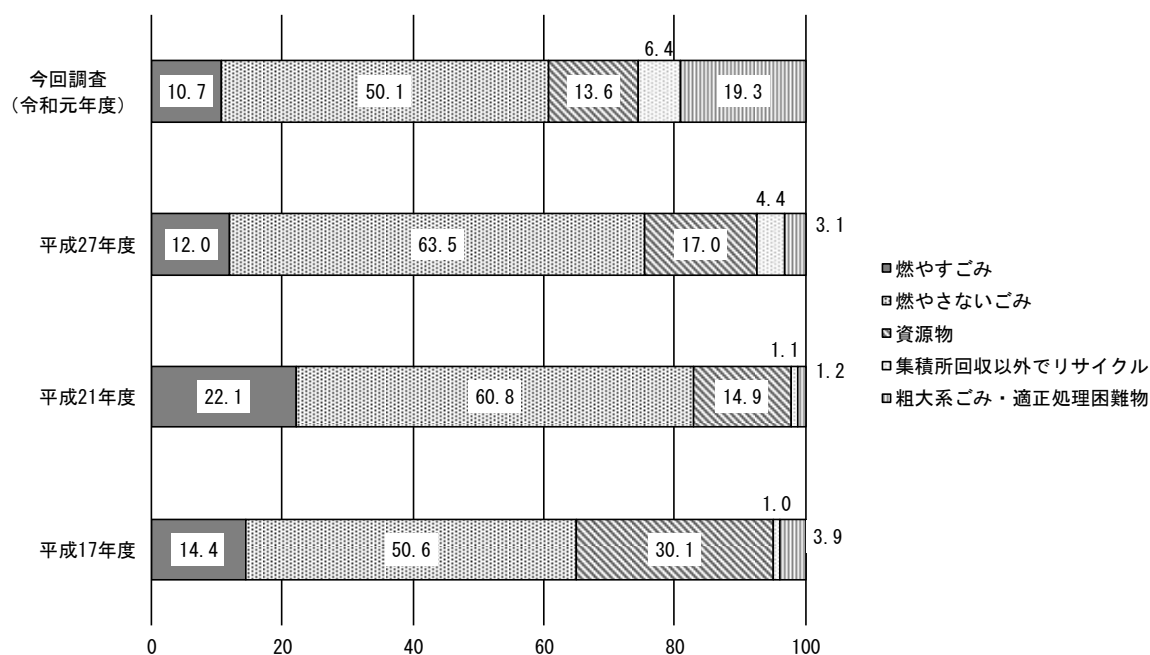


図 1.3.26 適正排出調査結果の経年変化

1.3.3 まとめ

(1) 燃やすごみ

ごみの組成を大分類で見ると、家庭ごみ、事業系ごみともに、厨芥類、紙類、プラスチック類の割合が高くなっている。また、中分類で見ると、家庭ごみ、事業系ごみともに、生ごみ（食べ残し以外）、フィルム系のプラスチック類、その他紙類、その他可燃物等の割合が高くなっている。各調査地域の調査結果を比較すると、地域によって多少の特徴はあるが、上記の傾向から大きく逸脱するほどの差異はみられなかった。

ごみの組成について経年変化をみると、前回調査と比較して紙類が大きく減少し、厨芥類とその他可燃物等が増加している。また、プラスチック類は、増加傾向から減少に転じているが、割合としては3番目に高い19.1%となっている。

適正排出についてみると、適正に排出されているごみの割合は、家庭ごみで78.8%、事業系ごみで76.7%であった。また、経年変化をみると、適正排出状況としては横ばいの傾向であり、粗大系ごみ・適正処理困難物の割合が増加し、資源物の割合が減少している。

容積についてみると、家庭ごみ、事業系ごみともに、プラスチック類、紙類、厨芥類の占める割合が高く、この3分類で全体の約3/4以上を占めている。

含水率について、生ごみの含水率は平均で77.3%、生ごみ以外の含水率は平均で27.8%であった。経年変化をみると、生ごみの含水率は過去の調査結果と比較して最も低い結果であった一方で、生ごみ以外のごみの含水率は過去の調査結果と比較して最も高い結果であった。

以上のことから、家庭ごみ、事業系ごみともに厨芥類、紙類、プラスチック類の割合が高くなっているため、これらの品目の発生抑制が区のごみ発生量の削減に大きく寄与するものと考えられる。なお、生ごみの含水率が減少していることから、区が推進している生ごみの水切り施策は一定の効果があるものと考えられるが、生ごみ以外のごみの含水率が増加していることから、新たな施策を検討していく必要があると考えられる。

表 1.3.31 家庭ごみ及び事業系ごみ排出実態調査結果の整理（燃やすごみ）

調査項目		調査結果の概要
湿重量 (組成)	大分類	家庭ごみ、事業系ごみともに、厨芥類、紙類、プラスチック類の占める割合が高い。
	中分類	家庭ごみ、事業系ごみともに、生ごみ（食べ残し以外）、フィルム系のプラスチック類、その他紙類、その他可燃物等の占める割合が高い。
適正排出		適正に排出されているごみの割合は、家庭ごみで78.8%、事業系ごみで76.7%であった。
容積		家庭ごみ、事業系ごみともに、プラスチック類、紙類、厨芥類の占める割合が高い。
含水率	生ごみ	全調査地域の平均で77.3%であった。
	生ごみ以外	全調査地域の平均で27.8%であった。
経年変化	湿重量 (組成)	厨芥類、繊維類、草木類、廃食油、その他可燃物等、ガラス類、家電類の割合が増加しており、紙類、プラスチック類、ゴム・皮革類、金属類、その他不燃物の割合は減少している。 特に、厨芥類の割合が大きく増加し、紙類の割合が大きく減少している。
	適正排出	不適正排出である粗大系ごみ・適正処理困難物が増加し、資源物が減少している。 適正排出の状況としては横ばいの傾向であった。
	含水率	生ごみの含水率は前回調査よりも減少しており、過去の調査結果と比較して最も低い結果であった。一方、生ごみ以外のごみの含水率は前回調査よりも増加しており、過去の調査結果と比較して最も高い結果であった。

(2) 燃やさないごみ

ごみの組成を大分類で見ると、家庭ごみ、事業系ごみともに、その他不燃物、金属類、その他可燃物等、ガラス類の占める割合が高くなっている。また、中分類で見ると、家庭ごみ、事業系ごみともに、その他可燃物等、陶磁器類、鉄類が占める割合が高くなっており、事業系ごみでは色付きワンウェイビンが占める割合が高い。各調査地域の調査結果を比較すると、家庭ごみは地域によって多少の特徴はあるが、上記の傾向から大きく逸脱するほどの差異はみられなかった。事業系ごみは、調査を実施した地域が4地域と少なく、調査結果にばらつきがみられた。

ごみの組成について経年変化をみると、他の項目と比較して、その他可燃物等の割合が大きく増加し、金属類の割合が大きく減少している。これは、その他可燃物等に含まれる粗大系ごみ・適正処理困難物の増加が大きく影響しているものと考えられる。

適正排出について、適正に排出されているごみの割合は、家庭ごみで51.8%、事業系ごみで39.4%と低い結果であった。経年変化をみると、他の項目と比較して、粗大系ごみ・適正処理困難物の割合が大きく増加しており、適正排出の状況としては悪化の傾向がみられた。

容積についてみると、家庭ごみ、事業系ごみともに、金属類、プラスチック類の割合が高い。また、家庭ごみではその他不燃物、事業系ごみではガラス類の占める割合がそれぞれ高くなっている。

以上のことから、粗大系ごみ・適正処理困難物が燃やさないごみとして不適正に排出されていることが示唆された。よって、区民及び事業者に対して、粗大系ごみ・適正処理困難物の適正排出を啓発・指導する施策を実施していく必要があると考えられる。

表 1.3.32 家庭ごみ及び事業系ごみ排出実態調査結果の整理（燃やさないごみ）

調査項目		調査結果の概要
湿重量 (組成)	大分類	家庭ごみ、事業系ごみともに、その他不燃物、金属類、その他可燃物等、ガラス類の占める割合が高い。
	中分類	家庭ごみ、事業系ごみともに、その他可燃物等、陶磁器類、鉄類が占める割合が高い。また、事業系ごみでは色付きワンウェイビンが占める割合が高い。
適正排出		適正に排出されているごみの割合は、家庭ごみで51.8%、事業系ごみで39.4%であった。
容積		家庭ごみでは、金属類、プラスチック類、その他不燃物の占める割合が高い。事業系ごみでは、金属類、プラスチック類、ガラス類の占める割合が高い。
経年変化	湿重量 (組成)	紙類、厨芥類、その他可燃物等、家電類が増加しており、繊維類、草木類、プラスチック類、ゴム・皮革類、ガラス類、金属類、その他不燃物は減少している。特に、その他可燃物等の割合が大きく増加し、金属類の割合が大きく減少している。
	適正排出	不適正排出である粗大系ごみ・適正処理困難物が増加し、適正排出の状況としては悪化の傾向がみられた。